



RAS Reporting Service ガイド

19.4

Parallels International GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel: + 41 52 672 20 30
www.parallels.com/jp

© 2024 Parallels International GmbH. All rights reserved. Parallels および Parallels ロゴは、カナダ、米国またはその他の国における、Parallels International GmbH の商標または登録商標です。

Apple、Safari、iPad、iPhone、Mac、macOS、iPadOS は、Apple Inc.の登録商標です。Google、Chrome、Chrome OS、Chromebook は、Google LLC の登録商標です。

その他のすべての社名、製品名、サービス名、ロゴ、ブランド、またすべての登録商標または未登録商標は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの所有者の独占的な財産となります。サードパーティに関わるブランド、名称、ロゴ、その他の情報、画像、資料の使用は、それらを推奨することを意味するものではありません。当社は、これらサードパーティに関わる情報、画像、素材、マーク、および他社の名称について所有権を主張するものではありません。特許に関するすべての通知と情報については、<https://www.parallels.com/jp/about/legal/>をご覧ください。

目次

はじめに.....	5
本ガイドの目的.....	5
注意事項.....	5
適用範囲.....	5
表記規則.....	5
概要	6
RAS Reporting Service とは.....	6
システム要件	6
オペレーティング システム要件	6
Microsoft SQL Server 要件	7
インストール場所	7
検証環境の構成.....	8
構築手順.....	9
事前準備.....	9
RAS レポート用 AD ユーザー アカウントの作成.....	9
.NET Framework のインストール.....	11
ポート開放.....	15
SQL Server のインストールと構成.....	19
SQL Server のインストール.....	19
SQL Server のリモート アクセス構成.....	26
SSMS のインストール	28
SSRS のインストールと構成.....	29
SSRS のインストール	29
SSRS の構成.....	33
RAS Reporting Service のインストールと構成.....	38
RAS Reporting Service のインストール.....	38
RAS Reporting Service の構成	42
RAS Reporting Service の実行.....	44
定義済みレポート.....	45
カスタム レポート	45
カスタム レポートの有効化.....	46
カスタム レポートの構成	47

付録	57
RAS レポート データベース テーブル	57

はじめに

本ガイドの目的

本ガイドは、Parallels® Remote Application Server (以降 RAS) の評価を目的に、初めて環境を構築されようとしているお客様や、販売店のエンジニア様に、シンプルなシステム構成で構築を完了し、RAS のリモート アクセスをお試しいただき体験いただくことを目的としております。

RAS 管理者ガイド (日本語) を、弊社 Web サイトに公開しておりますが、公開資料を補足する内容となっております。ぜひ、RAS 製品のシンプルで、かつ操作性の良いリモート アクセスを評価いただければ幸いです。

RAS 管理者ガイドを含むマニュアルの公開ページ

<https://www.parallels.com/jp/products/ras/resources/>

注意事項

- 本ガイドで紹介した仮想ネットワークおよび仮想サーバー等の導入に関しては自己責任での利用をお願いいたします。
- 本ガイドで示す環境構築および運用手順の実行に関しては、所属する組織等のセキュリティポリシーに必ず従ってください。
- 本ガイドに記載されている画面例、URL 等はガイド記載時のものとなるため、画面仕様が実際の画面とは異なることがありますのでご注意ください。
- 本ガイドに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
- 評価の際は、是非、インストール メディアのバージョンを含め、本ガイドの最新バージョンをご使用されることを推奨いたします。

適用範囲

本ガイドは、以下バージョンを対象としています。

- RAS Ver. 19.4

表記規則

本ガイド内の表記は、以下の規則に沿って行われています。

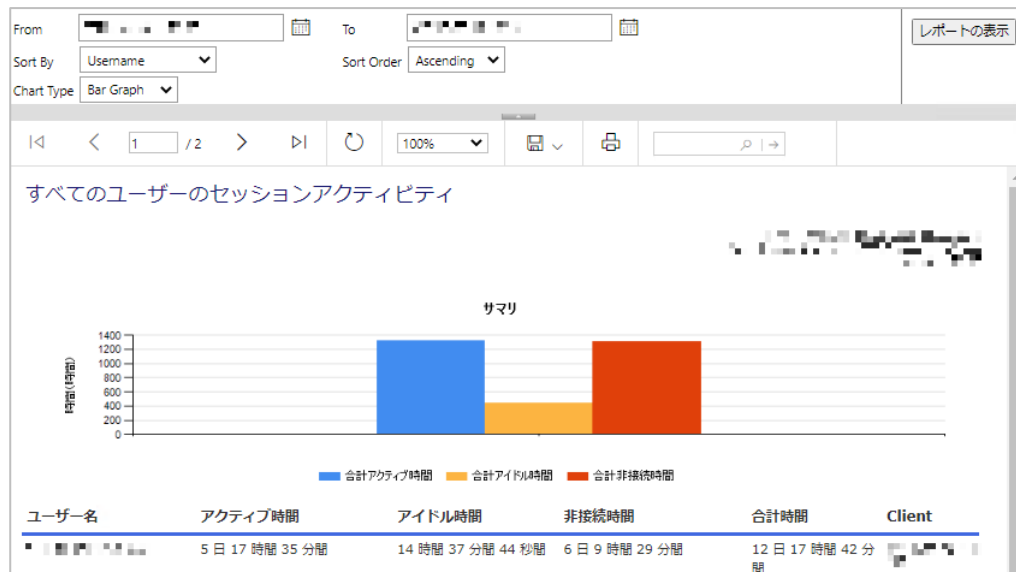
- RAS の画面に表示されるメニュー名/タブ名/プロパティ項目名/値/ボタン名は、[] で囲んで表記しています。
- 可変の値は < > で囲んで表記しています。

概要

本ガイドでは、Parallels® RAS Reporting Service の使用方法について説明します。

RAS Reporting Service とは

RAS Reporting Service は、Microsoft SQL Server を用いて、アプリケーションやデバイスの利用状況などをグラフや表で分かりやすく可視化したレポートを提供する機能です。RAS 管理者は、RAS console 上に定義済みレポートまたはカスタム レポートを確認することができます。定義済みレポートには、ユーザーおよびグループのアクティビティ、デバイス情報、セッション情報、アプリケーション使用率などが含まれます。独自の基準を使用してカスタム レポートを作成することもできます。



業務の安全性を確保し、セキュリティ対策を強化することは、企業や組織が最大限に注力すべき課題です。レポート機能の利用により、システムの安定的運用を阻害するような要因や権限のないアクセスなどの要因を早期に発見し、これらのリスクを未然に防ぐことが可能になります。また、ユーザーのマシンに対するログオン/ログオフやアプリケーションの使用時間等も取得できるため、業務の効率化やリソースの最適化によるコスト削減といった抑止効果も期待できるでしょう。

システム要件

注：RAS と SQL Server のバージョン互換性情報、また RAS Reporting Service をインストールするのに使用する必須コンポーネントの詳細については、管理者ガイド「[システム要件](#)」を参照してください。

オペレーティングシステム要件

RAS Reporting Service は、下記のいずれかのバージョンの Windows Server を実行するマシンにインストールする必要がある。

あります。

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2

.NET Framework 3.5 および .NET Framework 4.5 以降をインストールする必要があります。

Microsoft SQL Server 要件

RAS Reporting Service を使用する為には、SQL Server が必要です。

エディション	有償 / 無償	説明
Express	無償	1 データベース 10 GB までのデータ制限があります。
Standard	有償	コアベース モデルまたは、サーバー/CAL モデルのライセンスが必要です。
Enterprise	有償	コアベース モデルのライセンスが必要です。

RAS Reporting Service は、下記のバージョンの SQL Server で使用できます。

- Microsoft SQL Server 2019
- Microsoft SQL Server 2017
- Microsoft SQL Server 2016

インストール場所

- RAS 管理サーバーか、同ネットワーク内の別マシンのいずれかに、データベース インスタンスをインストールする必要があります。

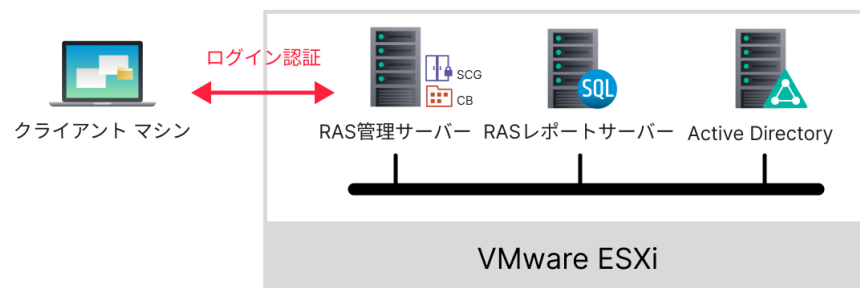
注：ターミナル サーバーや VDI サーバーが複数あるファーム環境では、SQL Server を専用サーバーにインストールすることを推奨します。

- SQL Server 2017 および 2019 以降を利用することにより、SQL Server データベース エンジンや SQL Server Reporting Services (SSRS) を個別のマシンにインストールできます。
- RAS Reporting Service は、SSRS が実行されているのと同じサーバーにインストールする必要があります。

検証環境の構成

本ガイドであつかう検証環境について説明します。検証環境を構成するコンポーネントのうち、サーバー側のコンポーネント(②～④)につきましては1台の物理マシン(①)上に構築します。クライアント側のコンポーネント(⑤)は、Windows OSの物理マシンを使用します。

物理サーバーとして構成した VMware ESXi 上に、管理サーバーおよび VM を構築した場合の構成イメージを以下に示します。



構成イメージにおける各コンポーネントの概要を下記に示します。

項番	マシン	役割	OS
1	VMware ESXi	仮想基盤 (ハイパーバイザー) ベースのプロバイダー。	
2	RAS 管理サーバー	RAS 環境への接続誘導、設定の保持。(RAS Connection Broker 兼 RAS Console 兼 RAS Secure Gateway)。	Windows Server 2022
3	RAS レポート サーバー	SQL Server+ SSRS 兼 RAS Reporting Service を実行しているマシン。	Windows Server 2022
4	AD サーバー	ユーザー認証。マシン登録。	Windows Server 2022
5	クライアント マシン	ユーザーが Parallels Client を使用し、公開済みのリソースにリモート接続するための物理マシン。	Windows 10 ^{*1}

*1: 本ガイドでは、Windows マシンを使用していますが、任意の OS を利用可能です。詳細は[管理者ガイド「ソフトウェア要件」](#)をご参照ください。

本ガイドで扱うツールのバージョンは、下記の通りです。

- SQL Server 2022 Express
- SQL Server 2022 Reporting Services
- SQL Server Management Studio v20.1
- Microsoft Report Builder v15.0

構築手順

本ガイドでは、SQL Server と SSRS を単一のマシンにインストールする手順を説明します。複数のマシンに個別インストールする手順については、ナレッジ (<https://kb.parallels.com/125156>) を参照して下さい。

事前準備

RAS レポート用 AD ユーザー アカウントの作成

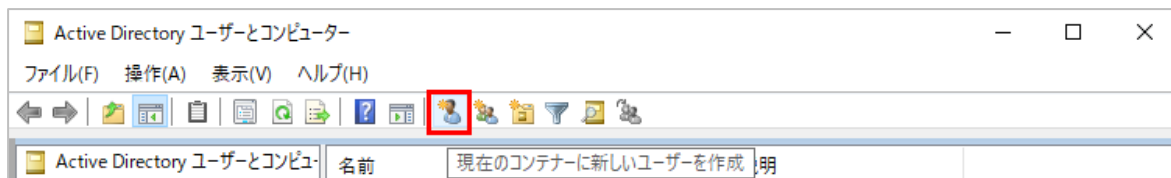
RAS レポートを表示するために使用する専用の Active Directory (AD) アカウント「RASREPORTINGVIEW」を作成します。

AD アカウントを作成する手順は下記の通りです。本操作は、AD サーバーにて実施します。

- 1 [サーバーマネージャー]>[ツール]の順に遷移し、[Active Directory ユーザーとコンピューター]を実行します。



- 2 ユーザーを作成したい OU に遷移し、[現在のコンテナに新しいユーザーを作成] アイコンをクリックします。



- 3 「新しいオブジェクト-ユーザー」ウィンドウが表示されます。下記の項目を入力し、[次へ]をクリックします。

項目	説明	このガイドでの値
姓	ユーザーの姓を入力します。	空白
名	ユーザーの名を入力します。	空白
イニシャル	ミドルネームのイニシャルを入力します。	空白
フルネーム	ユーザーのフルネームを入力します。 デフォルトでは、上の 3 項目で入力した内容が、連結された状態で表示されます。	RASREPORTINGVIEW
ユーザー ログオン名	AD の認証で使用するユーザー ログオン名を入力します。	RASREPORTINGVIEW @<ドメイン名>
ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)	Windows 2000 以前で使用するユーザーログオン名を入力します。	<ドメイン名>¥ RASREPORTINGVIEW

- 4 [パスワード] を入力し、[パスワードを無制限にする] オプションのみ選択された状態にして、[次へ] をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: [redacted]

パスワード(P): [redacted]

パスワードの確認入力(Q): [redacted]

☐ ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要(M)

☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☒ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- 5 設定内容を確認し、[完了] をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: [redacted]

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フル ネーム: RASREPORTINGVIEW

ユーザー ログオン名: RASREPORTINGVIEW@[redacted]

パスワードを無期限にする

< 戻る(B) **完了** キャンセル

.NET Framework のインストール

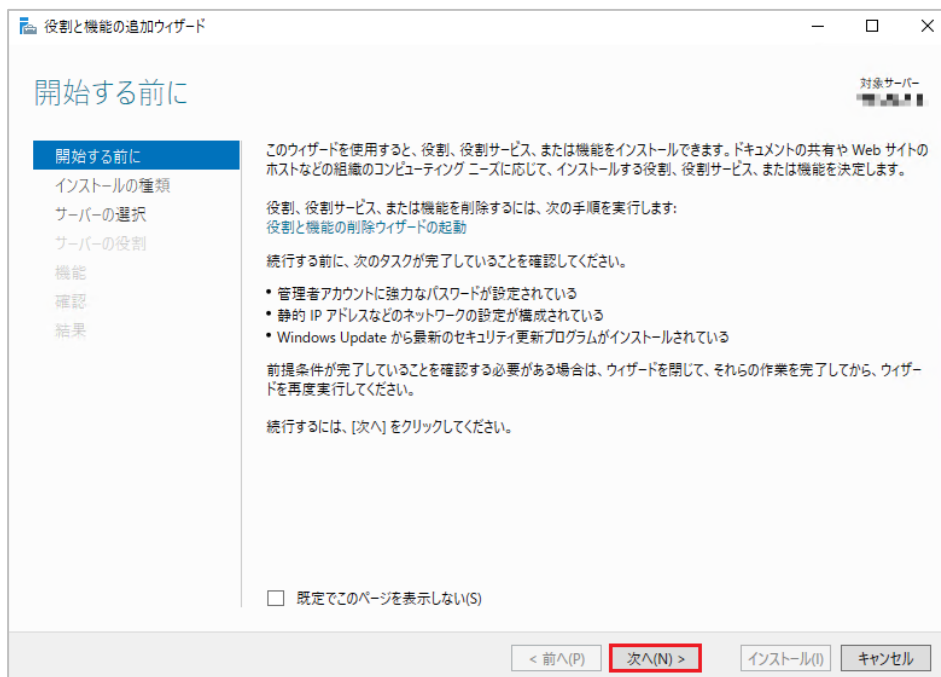
Microsoft .NET Framework 3.5 および 4.5 以降を RAS レポート サーバーにインストールします。既にインストール済みの場合は、本手順をスキップしてください。

Microsoft .NET Framework のインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポート サーバーにて実施します。

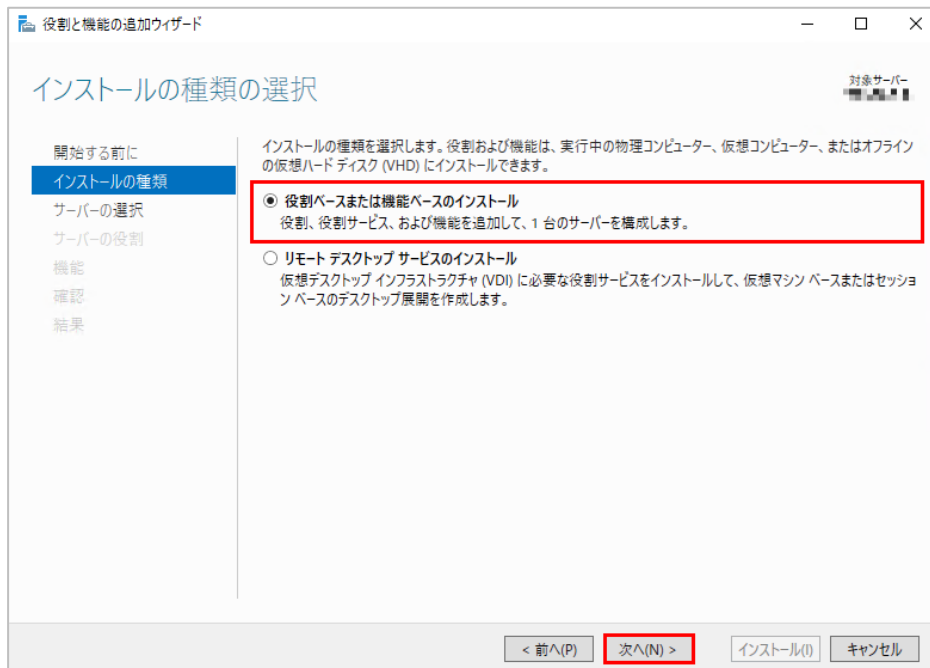
- 1 [サーバermanage]を実行し、[管理]>[役割と機能の追加]の順にクリックします。



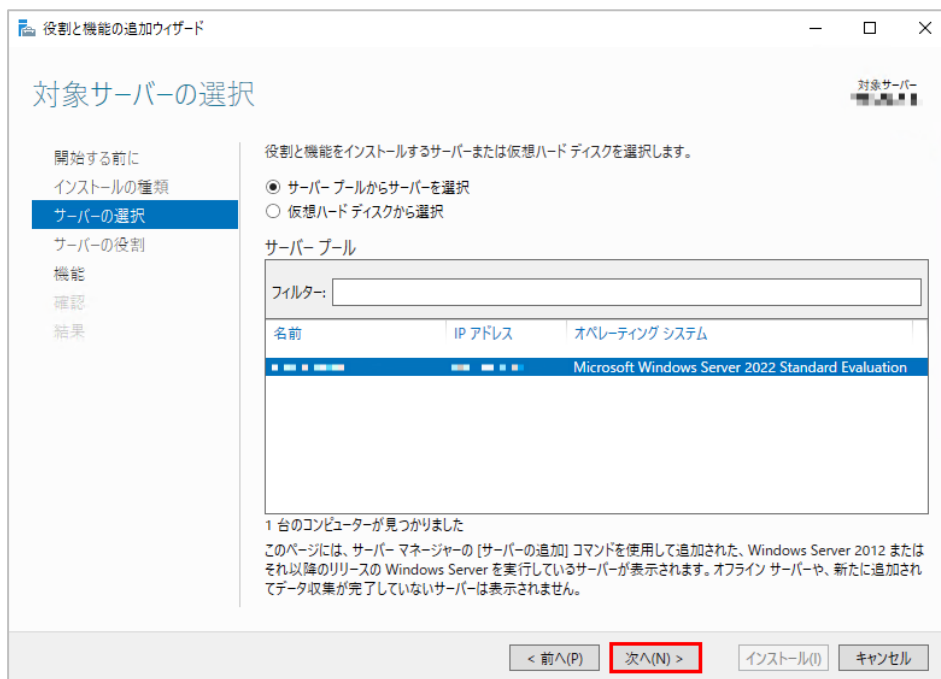
- 2 「役割と機能の追加」ウィザードが表示されます。[次へ]をクリックします。



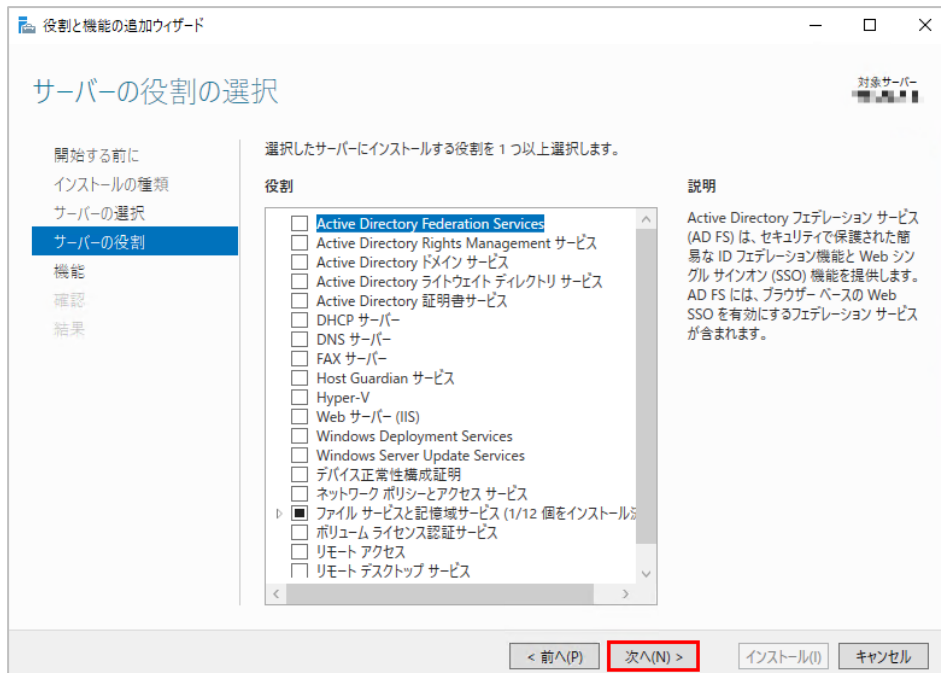
- 3 「インストールの種類」ページで、[役割ベースまたは機能ベースのインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。



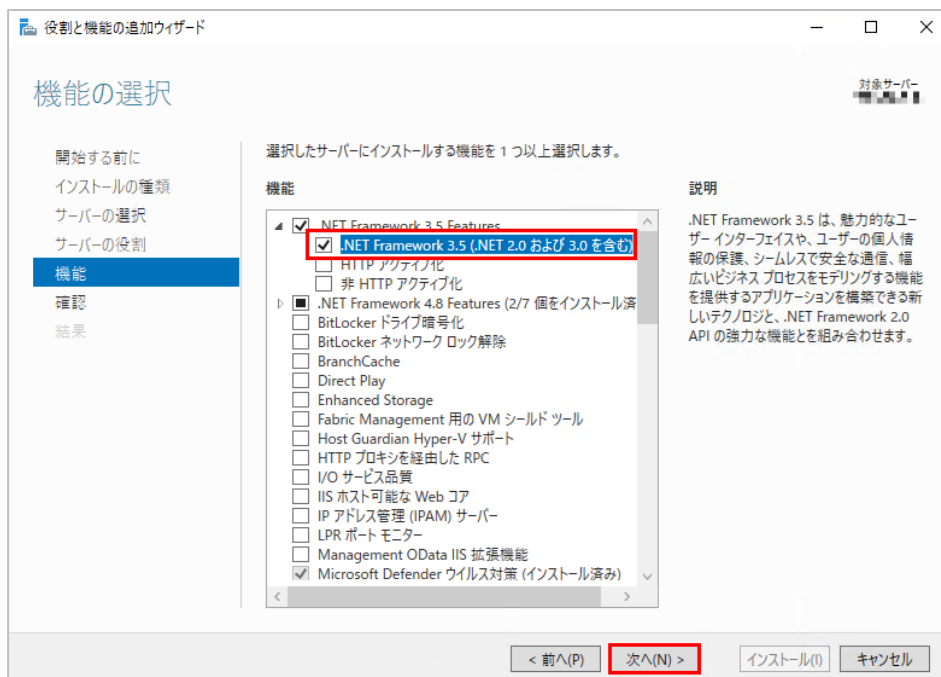
- 4 「対象サーバーの選択」ページで、RAS レポート サーバーが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



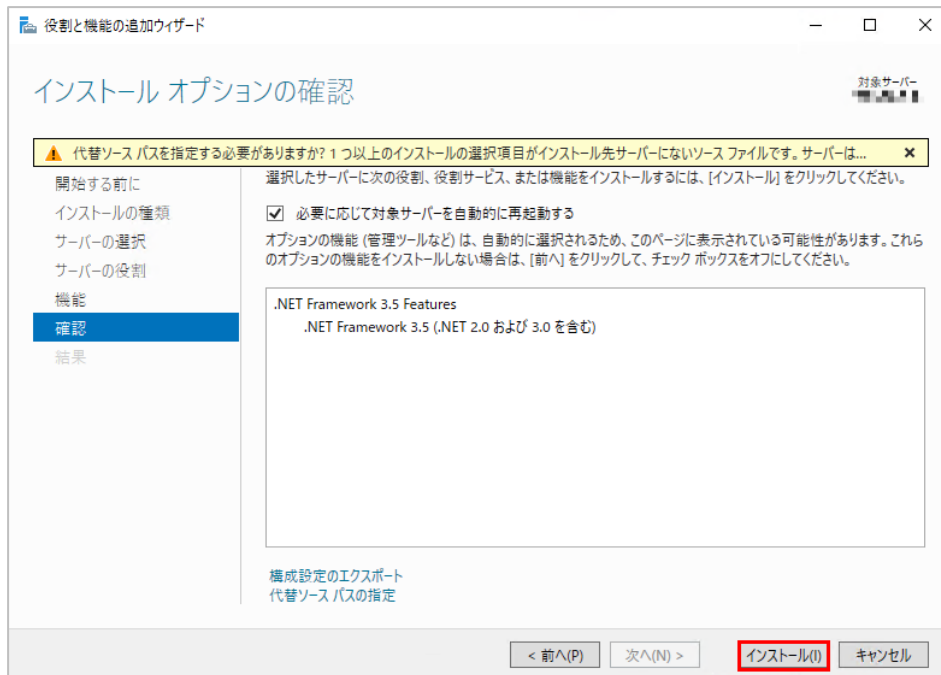
- 5 「サーバーの役割の選択」ページで、規定値のまま [次へ] をクリックします。



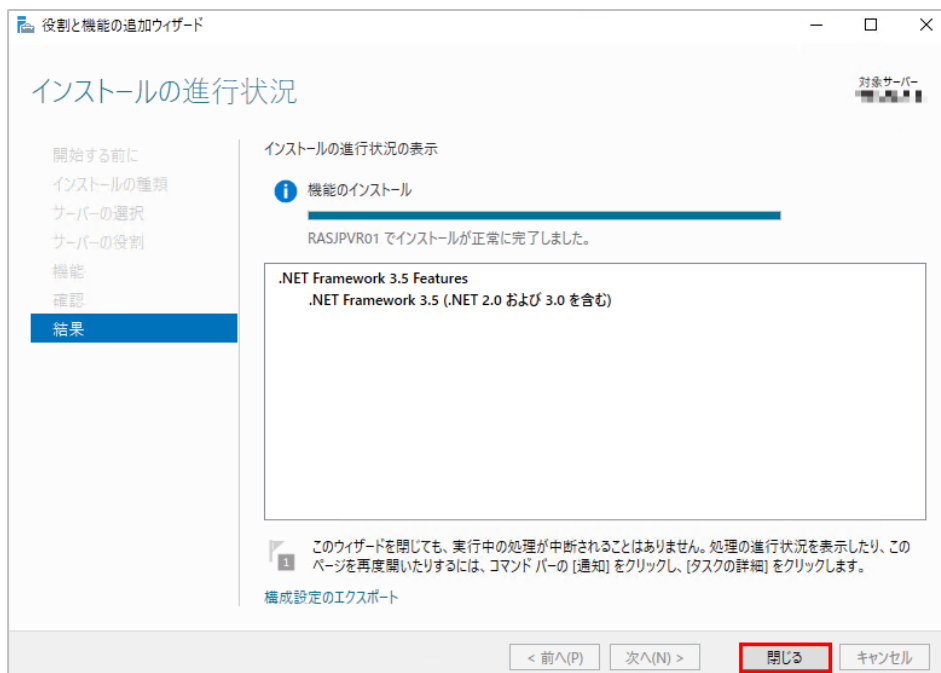
- 6 「機能の選択」ページで、[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)] を選択して、[次へ] をクリックします。



- 7 「インストール オプションの確認」 ページで、[インストール] をクリックします。



- 8 インストール完了後、[閉じる] をクリックして、ウィザードを閉じます。



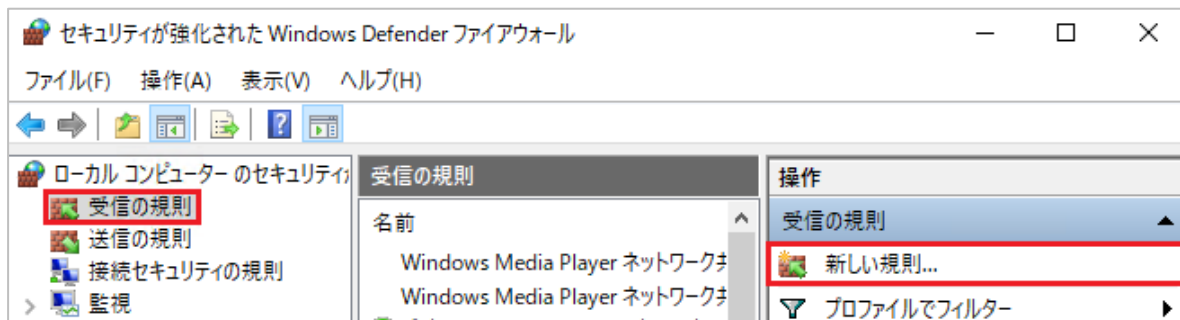
ポート開放

SQL Server および RAS Reporting Service を実行しているサーバーの受信トラフィックのファイアウォールで、特定ポートの通信を許可する必要があります。下記のポートを開放してください。

開放するポート (TCP) : 8085

ポートを開放する手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポート サーバーにて実施します。

- 1 [Windows セキュリティ] > [ファイアウォールとネットワーク保護] > [詳細設定] の順に遷移し、[セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール] を実行します。
- 2 [受信の規則] を選択して、[新しい規則] をクリックします。



- 3 「新規の受信の規則ウィザード」が表示されます。[ポート] を選択して、[次へ] をクリックします。



- 4 [TCP]を選択し、[特定のローカル ポート] に[<開放するポート>]を入力して、[次へ]をクリックします。

新規の受信の規則ウィザード

プロトコルおよびポート
この規則を適用するプロトコルとポートを指定してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか？

☒ TCP(T)

☐ UDP(U)

すべてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

☐ すべてのローカル ポート(A)

☒ 特定のローカル ポート(S): 8085
例: 80、443、5000-5010

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 5 [接続を許可する]を選択して、[次へ]をクリックします。

新規の受信の規則ウィザード

操作
規則で指定された条件を接続が満たす場合に、実行される操作を指定します。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか？

☒ 接続を許可する(A)
IPsec を使用して保護された接続と保護されていない接続の両方を含みます。

☐ セキュリティで保護されている場合のみ接続を許可する(C)
IPsec を使用して認証された接続のみを含みます。接続は、IPsec プロパティ内の設定と接続セキュリティ規則ノード内の規則を使用して、セキュリティ保護されます。

カスタマイズ(Z)...

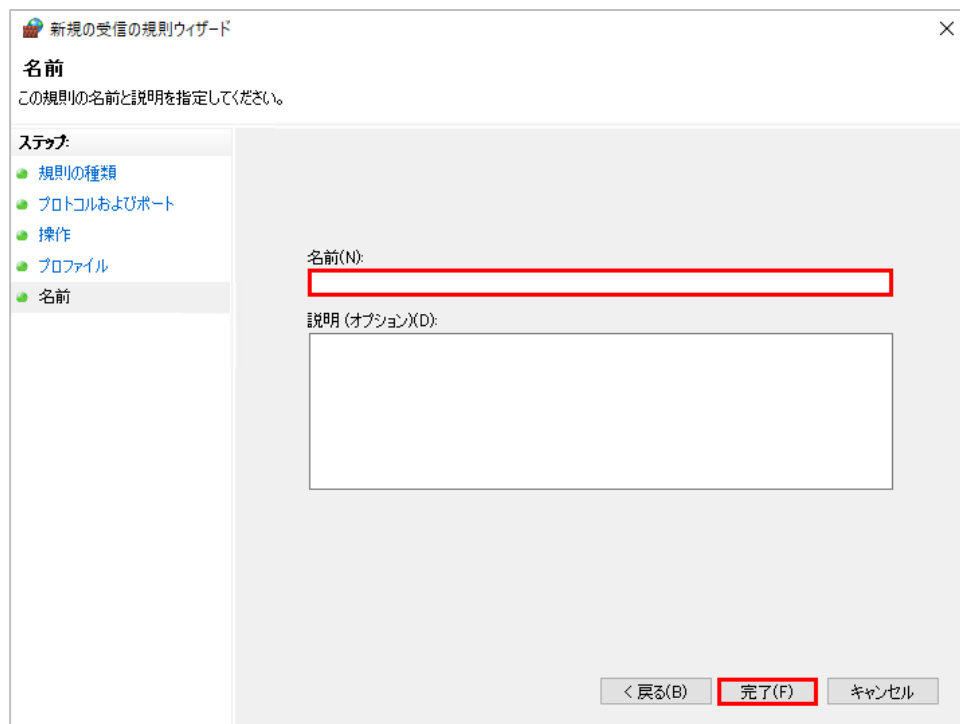
☐ 接続をブロックする(K)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6 [次へ] をクリックします。



7 規則の [名前] を入力して、[完了] をクリックします。



SQL Server のインストールと構成

SQL Server と SSRS を単一のマシンにインストールする手順を説明します。SQL Server のインストールには、RAS レポートサーバーに対するローカル管理者権限持ちの AD アカウントを使用してください。

SQL Server のインストール

SQL Server Express エディションを使用する場合は、こちらからダウンロードしてください。

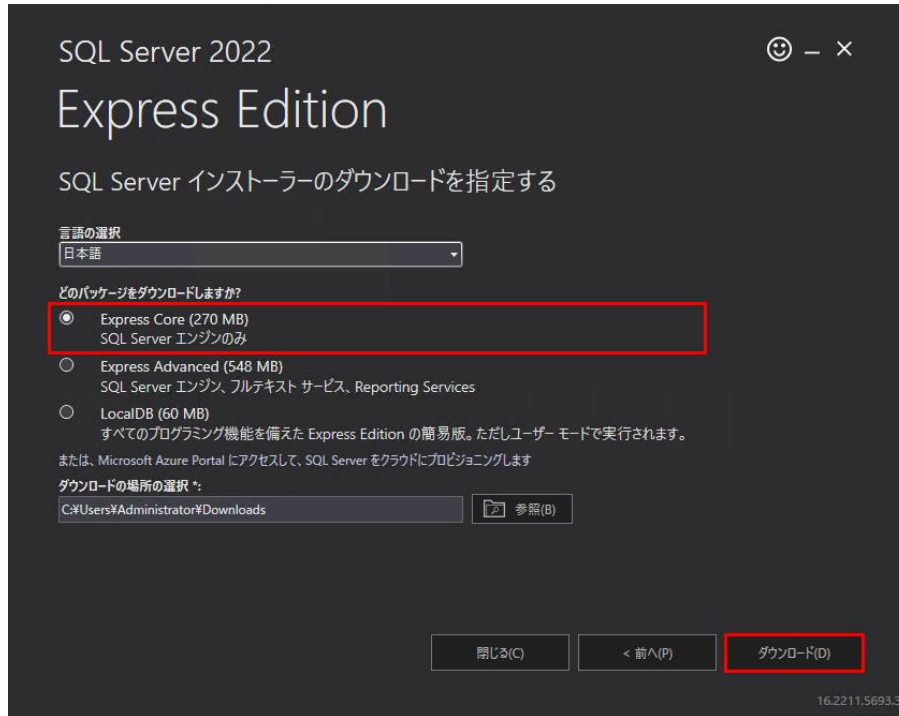
<https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-downloads>

SQL Server のインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポートサーバーにて実施します。

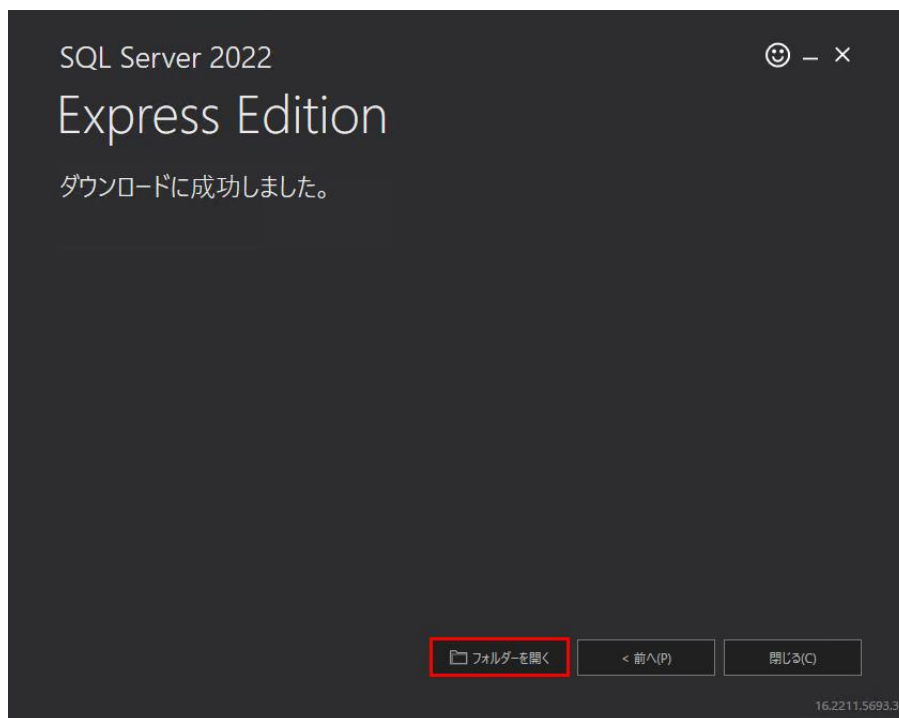
- 1 インストーラー [SQLEXPRESS_x64_JPN.exe] を実行します。
- 2 [メディアのダウンロード] をクリックします。



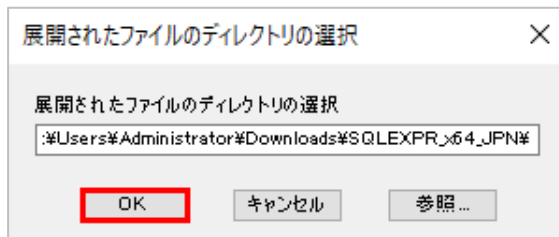
- 3 [Express Core] を選択後、[ダウンロード] をクリックしてインストーラーをダウンロードします。



- 4 ダウンロード完了後、[フォルダーを開く] をクリックします。



- 5 インストーラー [SQLEXPADV_x64_JPN.exe] をダブルクリックして実行します。
- 6 「展開されたファイルのディレクトリの選択」 ダイアログが表示されます。[OK] をクリックします。



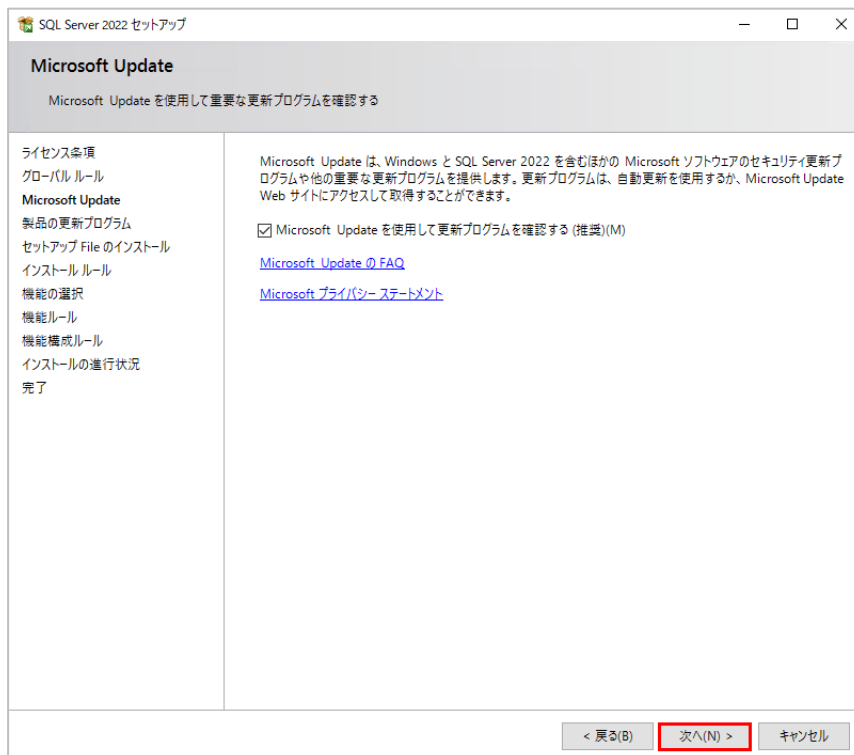
- 7 「SQL Server インストール センター」 ウィンドウが表示されます。[SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加] をクリックします。



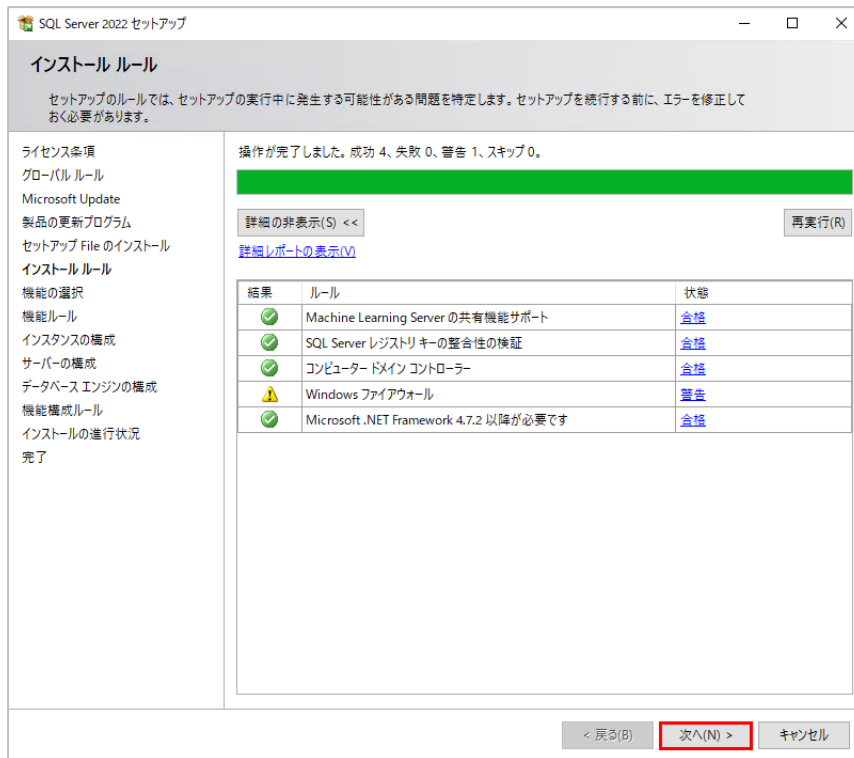
- 8 「ライセンス条項」 ページで、[ライセンス条項と次に同意します] を選択して、[次へ] をクリックします。



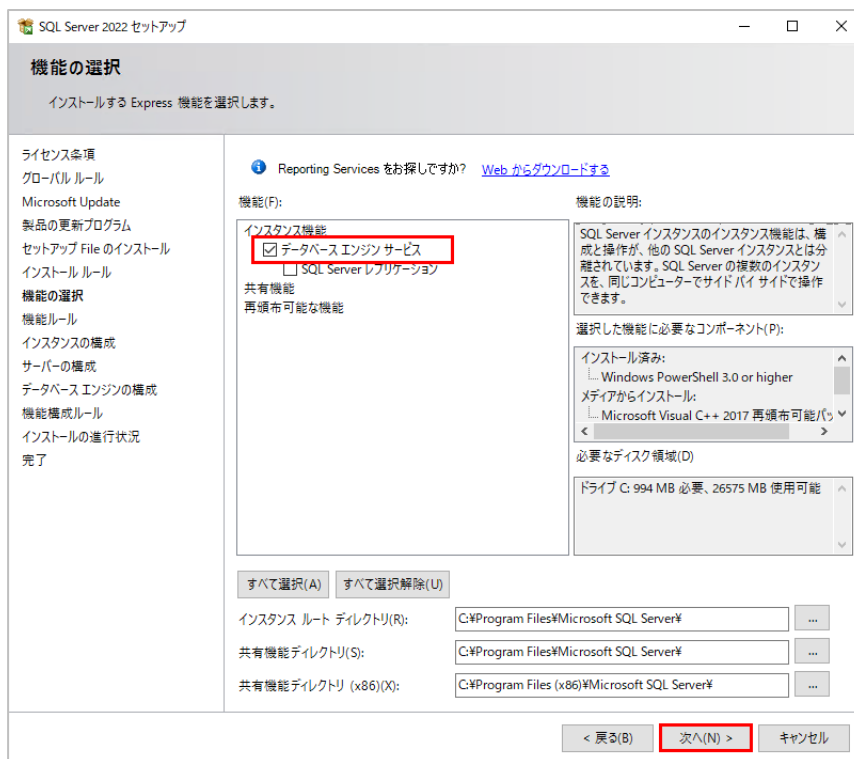
- 9 「Microsoft Update」 ページで、必要に応じて [Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する] を選択して、[次へ] をクリックします。



- 10 「インストールルール」ページで、[次へ]をクリックします。



- 11 「機能の選択」ページで、[データベース エンジン サービス]のみ選択された状態にして、[次へ]をクリックします。



- 12 「インスタンスの構成」ページで、[名前付きインスタンス] で規定値をそのまま使用するか、[<任意のインスタンス名 (大文字)>] (例: RASREPORTING) を入力して、[次へ] をクリックします。

SQL Server 2022 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベース エンジンの構成
機能構成ルール
インストールの進行状況
完了

☐ 既定のインスタンス(D)
☒ 名前付きインスタンス(A): * RASREPORTING

インスタンス ID(I): RASREPORTING

SQL Server ディレクトリ: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL16.RASREPORTING

インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
---------	-----------	----	--------	-------

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- 13 「サーバーの構成」ページで、[スタートアップの種類] を [自動] に設定し、[次へ] をクリックします。

SQL Server 2022 セットアップ

サーバーの構成

サービス アカウントと照合順序の構成を指定します。

サービス アカウント 照合順序

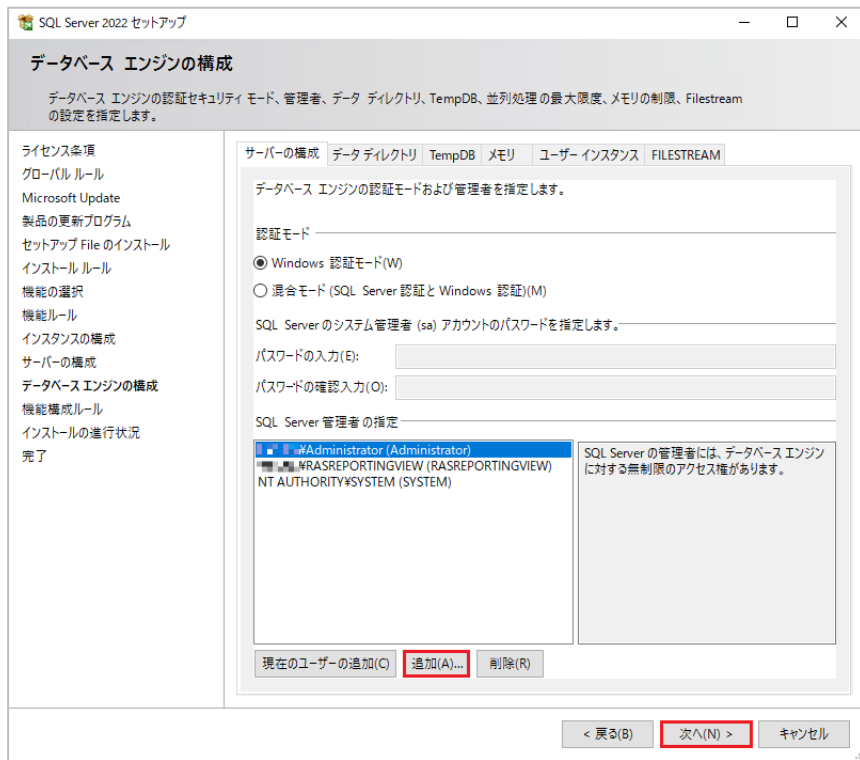
各 SQL Server サービスに別々のアカウントを使用することをお勧めします(M)

サービス	アカウント名	パスワード	スタートアップの種類
SQL Server データベース エンジン	NT Service\MSSQL\$RASREPORTING		自動
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE		自動

☐ SQL Server データベース エンジン サービスに [ボリュームの保守タスクを実行] 特権を付与する(G)
この特権は、データ ページの領域の解放を回避することによってファイルの瞬時初期化を有効にします。これにより削除されたコンテンツにアクセスを許可するため、情報の開示につながる可能性があります。
[詳細はこちらをクリック](#)

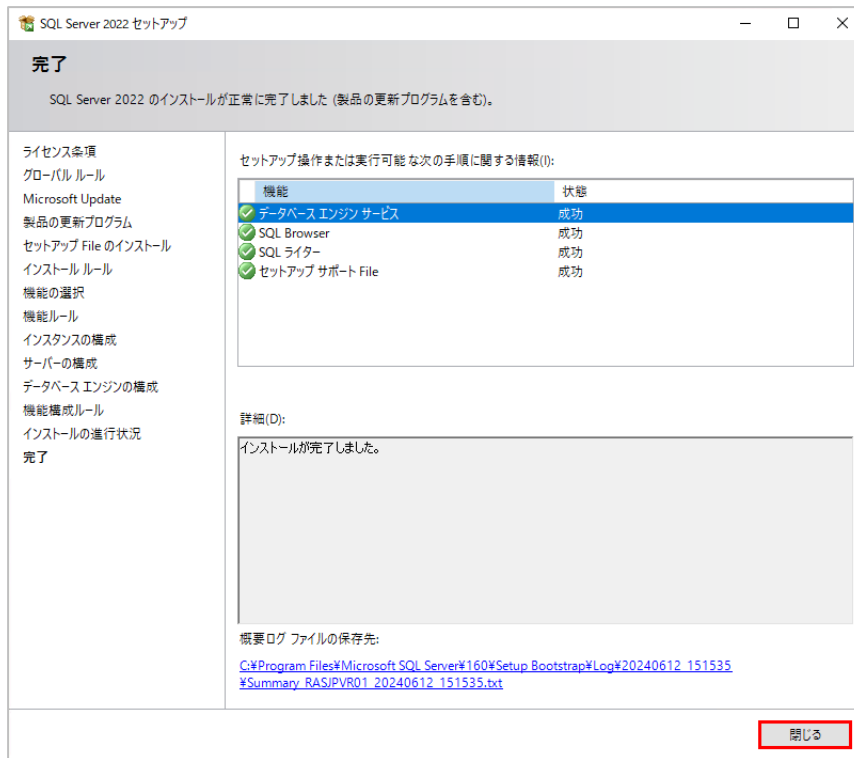
< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- 14 「データベース エンジンの構成」ページで、SQL Server 管理者として下記のユーザー アカウントを追加し、[次へ] をクリックします。



- AD の管理者アカウント
- RAS レポート用 AD アカウント (例: RASREPORTINGVIEW)
- システム ユーザー アカウント (NT AUTHORITY\SYSTEM)

- 15 インストール完了後、[閉じる]をクリックして、ウィザードを閉じます。

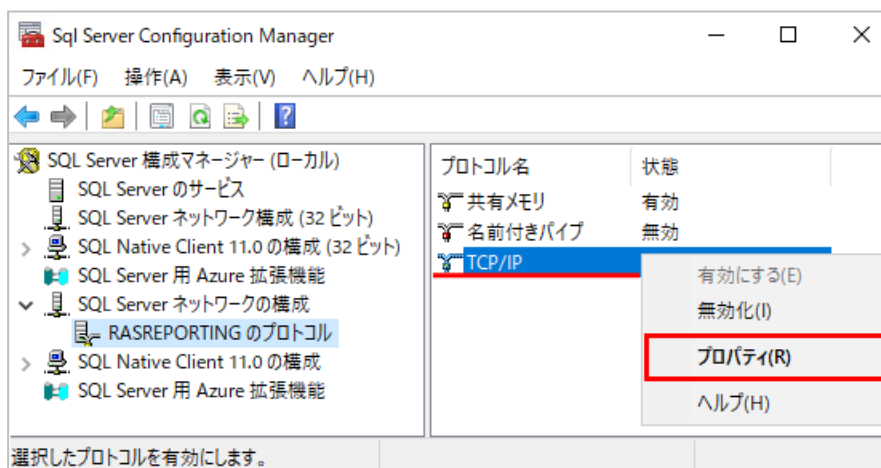


SQL Server のリモート アクセス構成

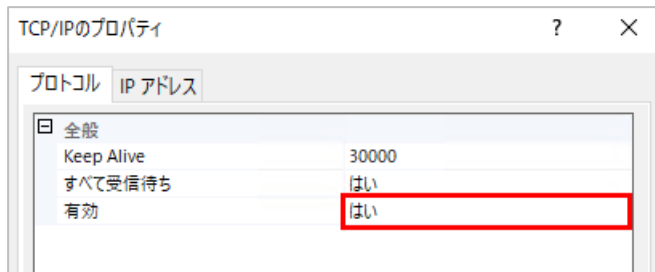
SQL Server インスタンスへのリモート接続を有効にするには、TCP/IP を有効にし、すべての IP アドレスに対してポート 1433 を設定する必要があります。

リモート アクセスの構成手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポートサーバーにて実施します。

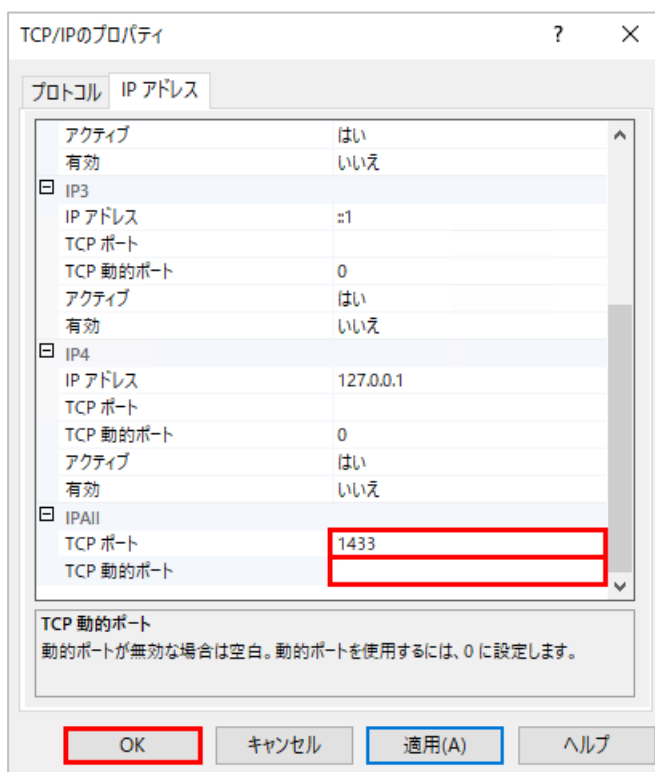
- 1 [SQL Server 2022 構成マネージャー] を実行し、[SQL Server ネットワークの構成] > [<SQL Server インスタンス名> のプロトコル] の順に遷移後、[TCP/IP] を右クリックして [プロパティ] を選択します。



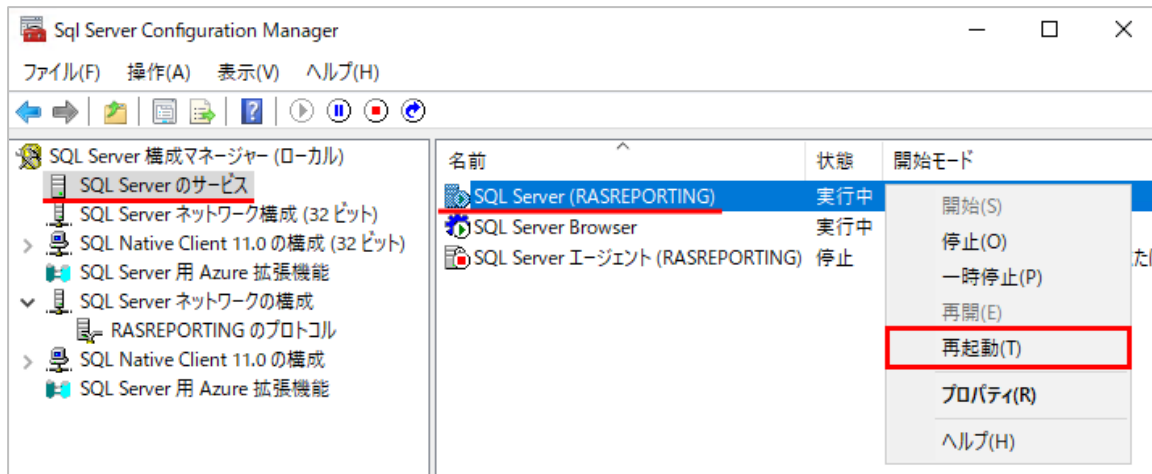
- 2 [プロトコル] タブの [有効] オプションで [はい] を選択します。



- 3 [IP アドレス] タブにて、[IPAll] 節にて [TCP ポート] に [1433] を入力し、[TCP 動的ポート] を [空白] に変更後、[OK] をクリックします。



- 4 [SQL Server のサービス] に遷移し、[SQL Server (<インスタンス名>)] を右クリックして、[再起動] を選択します。



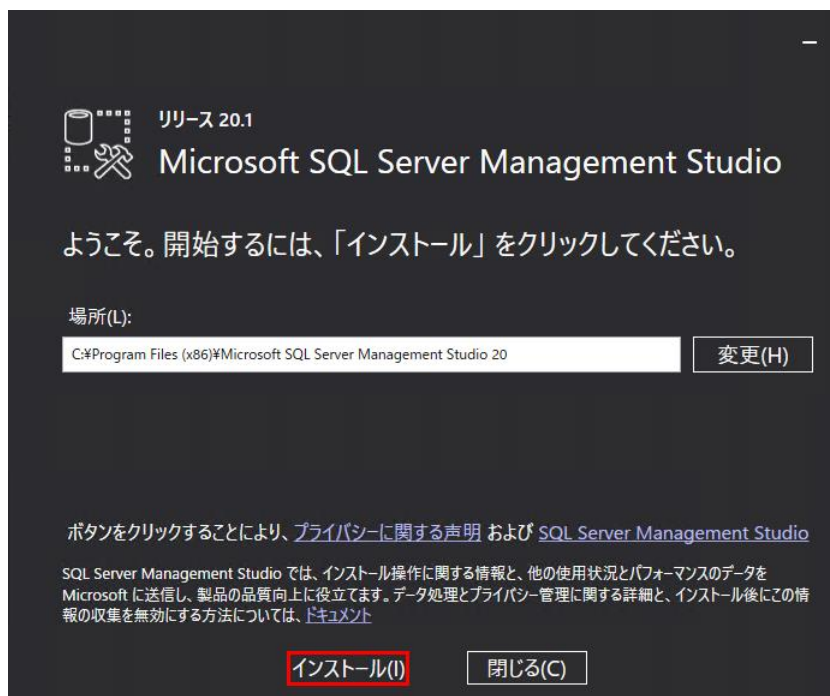
SSMS のインストール

SQL Server Management Studio (SSMS) の日本語版をこちらからダウンロードしてください。

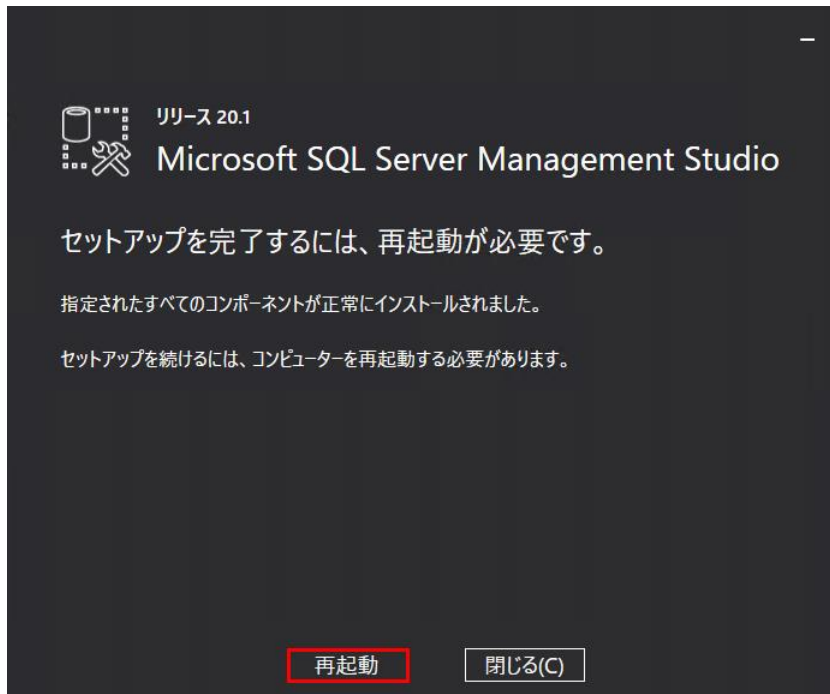
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?view=sql-server-ver16#available-languages>

SSMS のインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポート サーバーにて実施します。

- 1 インストーラー [SSMS-Setup-JPN.exe] を実行します。
- 2 [インストール] をクリックします。



- 3 インストール完了後、[再起動] をクリックします。



SSRS のインストールと構成

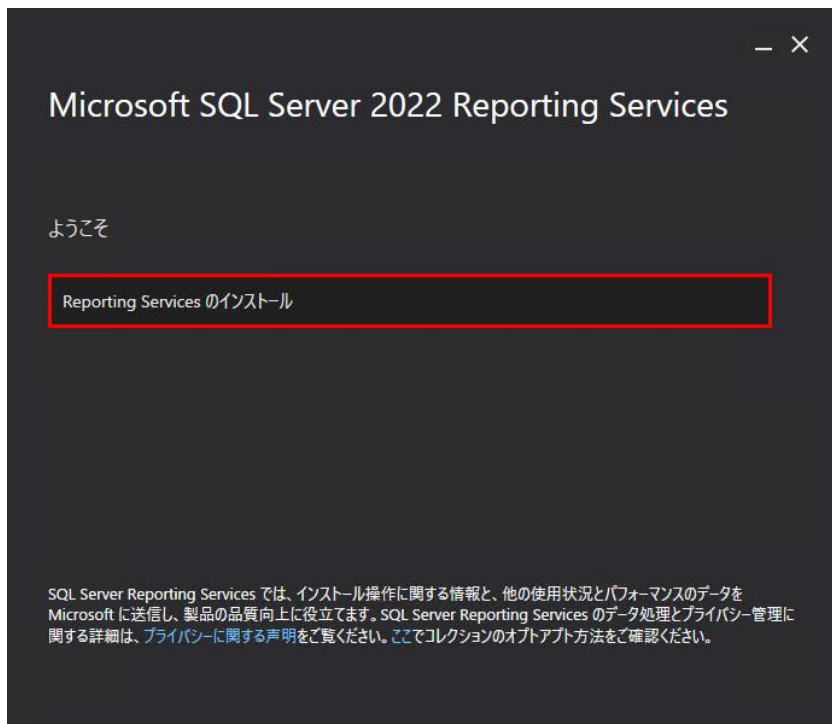
SSRS のインストール

SQL Server Reporting Services (SSRS) を Microsoft ダウンロード センターからダウンロードしてください。
<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx>

SSRS のインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポート サーバーにて実施します。

- 1 インストーラー [SQLServerReportingServices.exe] を実行します。

- 2 [Reporting Services のインストール] をクリックします。



- 3 「エディション選択」 ページで、[Express] エディションを選択して、[次へ] をクリックします。



- 4 「ライセンス条項」 ページで、[ライセンス条項に同意する] を選択して、[次へ] をクリックします。



- 5 「データベース エンジンのインストール」 ページで、[次へ] をクリックします。



- 6 「インストール先の指定」ページで、[インストール] をクリックします。



- 7 インストール完了後、[レポートサーバーの構成] をクリックします。

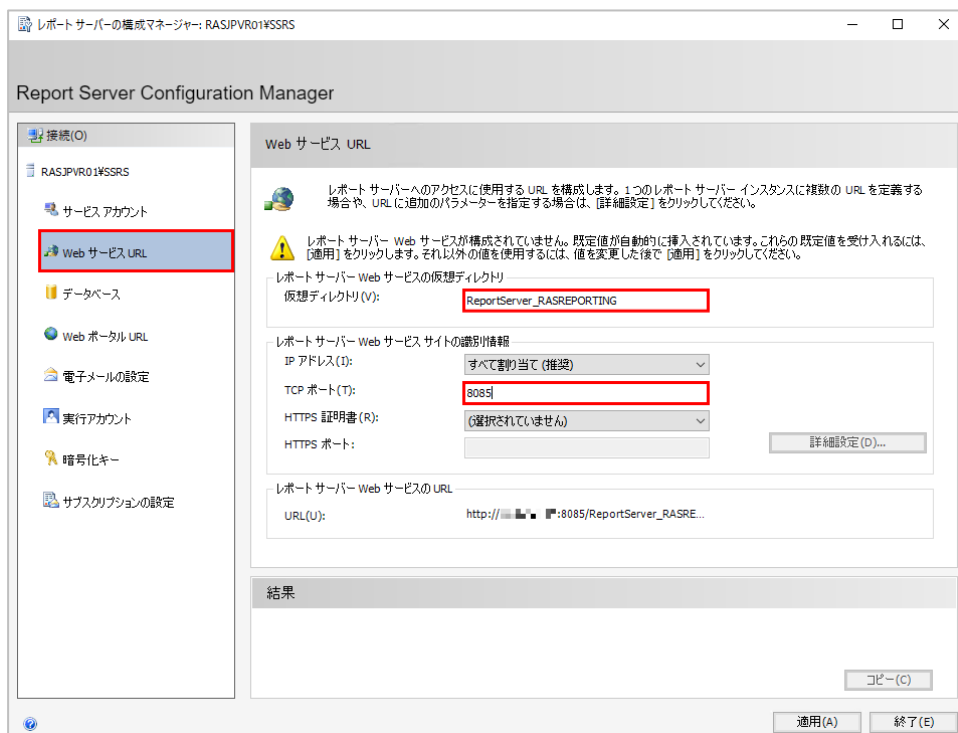


SSRS の構成

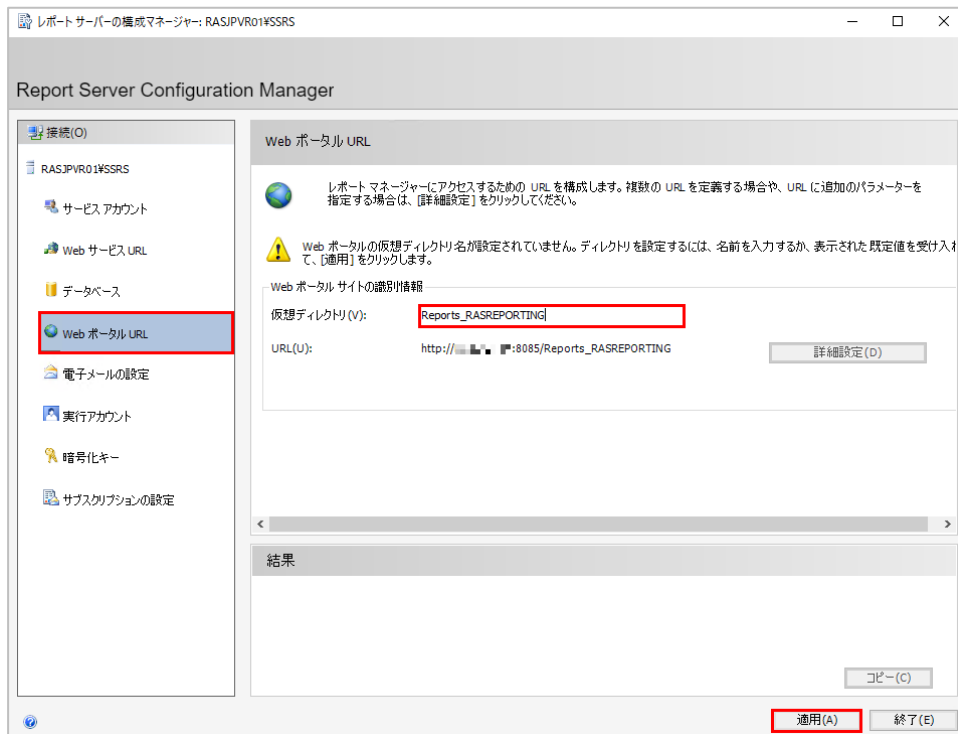
- 1 [Report Server Configuration Manager] を実行し、[接続] をクリックします。



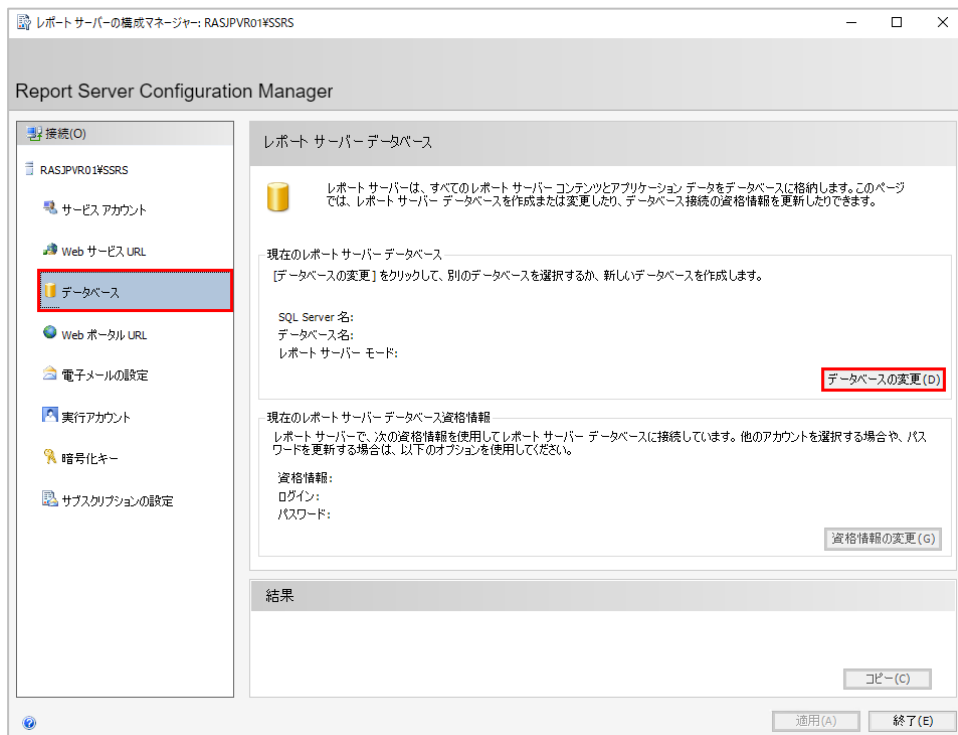
- 2 [Web サービス URL] をクリックし、[仮想ディレクトリ] に「ReportServer_<SQL Server インスタンス名>」(例: ReportServer_RASREPORTING)、[TCP ポート] に [8085] を入力し、[適用] をクリックします。



- 3 [Web ポータル URL] をクリックし、[仮想ディレクトリ] に「Reports_<SQL Server インスタンス名>」(例: Reports_RASREPORTING) を入力し、[適用] をクリックします。



- 4 [データベース] をクリックし、[データベースの変更] をクリックします。



- 5 「レポート サーバー データベース構成」ウィザードが表示されます。[新しいレポートサーバー データベースを作成する]を選択し、[次へ]をクリックします。

- 6 「データベース サーバー」ページの [サーバー名] に「<hostname>¥< SQL Server インスタンス名>」(例: <hostname>¥RASREPORTING)と入力して、[次へ]をクリックします。

- 7 「データベース」 ページで、既定値のまま [次へ] をクリックします。

レポート サーバー データベース構成ウィザード

データベースの変更
レポート サーバー データベースの作成と構成のどちらかを選択してください。

アクション	データベース名を入力し、SQL スクリプトの実行に使用する言語を選択します。
データベース サーバー	
データベース	
資格情報	
概要	
続行して完了する	

データベース名: ReportServer

一時データベース名: ReportServerTemp

言語: 日本語 (日本)

レポート サーバー モード: ネイティブ

戻る(P) 次へ(N) キャンセル(O)

- 8 「資格情報」 ページで、既定値のまま [次へ] をクリックします。

レポート サーバー データベース構成ウィザード

データベースの変更
レポート サーバー データベースの作成と構成のどちらかを選択してください。

アクション	レポート サーバーでレポート サーバー データベースへの接続に使用される既存アカウントの資格情報を指定します。指定したアカウントには、レポート サーバー データベースへのアクセス権限が自動的に与えられます。
データベース サーバー	
データベース	
資格情報	
概要	
続行して完了する	

資格情報:

認証の種類: サービス資格情報

ユーザー名: NT SERVICE#SQLServerReportingService

パスワード:

戻る(P) 次へ(N) キャンセル(O)

- 9 設定内容を確認し、[次へ] をクリックします。

レポートサーバー データベース構成ウィザード

データベースの変更
レポートサーバー データベースの作成と構成のどちらかを選択してください。

アクション	次の情報を使用して新しいレポートサーバー データベースを作成します。続行する前に、この情報が正しいか確認してください。
データベースサーバー	
データベース	
資格情報	
概要	SQL Server インスタンス: ■ ■ ■ ■ ■ *RASREPORTING レポートサーバー データベース: ReportServer 一時データベース: ReportServerTempDB レポートサーバーの言語: 日本語 (日本) レポートサーバー モード: ネイティブ 認証の種類: サービス アカウント ユーザー名: NT SERVICE\SQLServerReportingServi... パスワード: *****
続行して完了する	

戻る(P) 次へ(N) キャンセル(C)

- 10 データベース構成の完了後、[完了] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

レポートサーバー データベース構成ウィザード

データベースの変更
レポートサーバー データベースの作成と構成のどちらかを選択してください。

アクション	レポートサーバー データベース構成ウィザードでデータベースを構成しています。しばらくお待ちください。この処理には数分かかる場合があります。
データベースサーバー	
データベース	
資格情報	
概要	
続行して完了する	

データベース SKU を確認しています	成功
データベース スクリプトを生成しています	成功
データベース スクリプトを実行しています	成功
権限スクリプトを生成しています	成功
接続権限を適用しています	成功
DSN を設定しています	成功

戻る(P) 完了(F) キャンセル(C)

RAS Reporting Service のインストールと構成

RAS Reporting Service のインストールおよび設定方法について説明します。RAS Reporting Service は、SSRS が実行されているのと同じサーバーにインストールしてください。インストールには、AD アカウントを利用してください。

RAS Reporting Service のインストール

RAS Reporting Service のインストーラーをこちらからダウンロードしてください。

<https://www.parallels.com/jp/products/ras/download/links/>

RAS Reporting Service のインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポート サーバーにて実施します。

- 1 インストーラー [RASReporting.msi] を実行します。
- 2 「RAS Reporting セットアップ」ウィンドウが表示されます。[次へ] をクリックします。



- 3 「ライセンス条件」ページで、[使用許諾契約書に同意します]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 4 「データベース接続」ページで、[場所] に [Localhost] を選択、[SQL インスタンス名] に [<SQL Server インスタンス名>] (例: RASREPORTING) を入力し、[次へ] をクリックします。

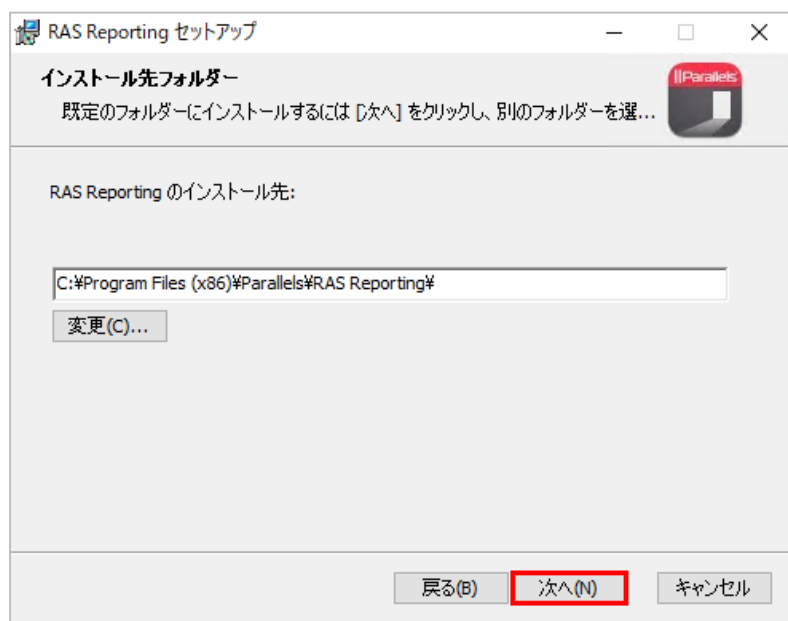
注: SQL Server が別のサーバーにインストールされている場合は、[場所] で [Remote] を選択し、サーバー情報を入力します。



- 5 「レポートユーザーの表示」ページで、[ユーザー名] に [<RAS レポート用 AD アカウント>] (例: rasreportingview) を入力して、[次へ] をクリックします。



- 6 「インストール先フォルダー」ページで、[次へ] をクリックします。



- 7 「ファイアウォールの設定」 ページで、[次へ] をクリックします。



- 8 「準備完了」 ページで、[インストール] をクリックします。



- 9 インストールの完了後、[完了] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

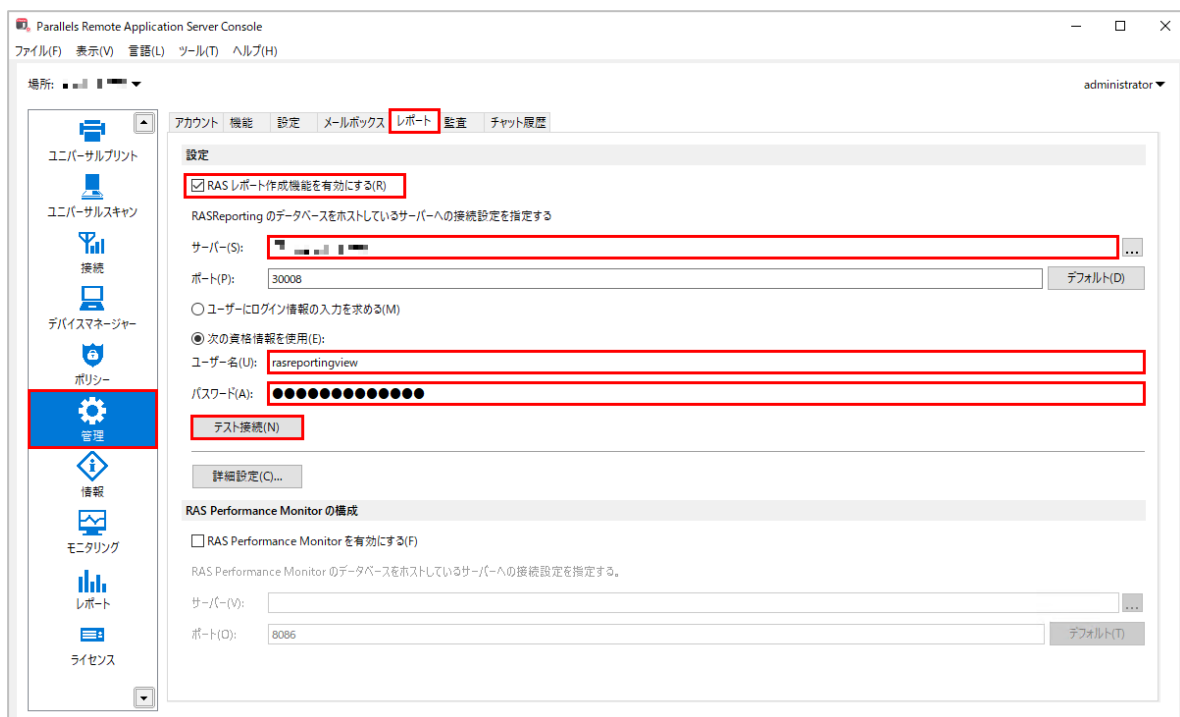


RAS Reporting Service の構成

レポートを作成するには、RAS レポートサーバーと通信するように RAS を設定する必要があります。

レポート作成機能の設定手順は下記の通りです。本操作は、RAS 管理サーバーにて実施します。

- 1 [RAS console] を実行し、[管理] > [レポート] タブに遷移します。

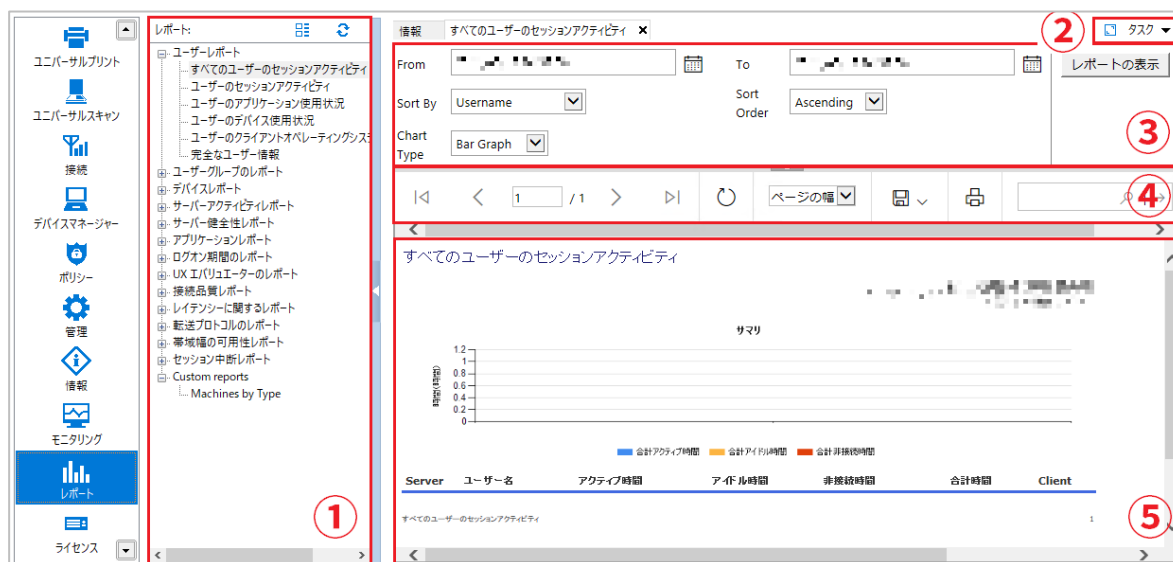


- 2 [RAS レポート作成機能を有効にする]を選択します。
- 3 [サーバー]に「<RAS Reporting Service がインストールされているマシンの IP アドレスまたはホスト名>」を入力します。
- 4 ユーザー ログイン オプション [次の資格情報を使用] を選択し、[ユーザー名] に [<RAS レポート用 AD アカウント>] (例: rasreportingview) を指定して、[パスワード] を入力します。
- 5 [接続のテスト]をクリックします。
- 6 接続のテスト完了後、[適用] をクリックして、構成の変更を保存します。

RAS Reporting Service の実行

[RAS console] の [レポート] にて、使用可能なレポートのリストを確認することができます。

レポート情報は以下のように表示されます。



項目	説明
① レポート リスト	利用できるレポートのリストが表示されます。リストのレポートをダブルクリックすることで、右ペインにレポートが表示されます。 [フォルダー] アイコン: レポートリストをタイプ別にグループ表示します。 [更新] アイコン: データベースからレポートを取得し、レポートリストを更新します。
② [タスク] メニュー	[タスク] ドロップダウンリストでは、下記のアクションを実行できます。 複製 : レポートタブを複製します。 フルスクリーン : レポートの全画面表示をオン/オフします。 レポートを閉じる : レポートを閉じます。 委任の許可 : レポートを表示する権限を、これらの権限を持っていない上級管理者やカスタム管理者など、他の RAS 管理者に付与することができます。
③ コントロール	レポートの [開始日] / [終了日]、[並び順]、[チャートタイプ]、[サーバー名] などを選択できます。レポートタイプにより、表示されるコントロールは異なります。コントロールの値をレポートに反映する際は、[レポートの表示] をクリックして設定を適用します。
④ メニューバー	倍率の変更、レポートページの一覧表示 (複数含まれる場合)、テキストの検索、レポートのファイルへの保存、レポートの印刷、レポートの利用可能な任意の形式 (Word、Excel、PowerPoint、PDF) またはデータフィードへのエクスポートを実行することができます。
⑤ レポート領域	コントロールの値を反映したレポートが表示されます。

注意事項

- RAS Reporting Service は、インストール後に新しく確立されたセッションに関するデータの収集を開始します。既存のセッションはレポートに含まれません。
- RAS Reporting Service は、ユーザー (セッション所有者) がログオフした後、セッション情報をデータベースにコミットします。レポートに特定のユーザーに関する情報が表示されない場合は、ユーザーがログオフされていることを確認してください。
- 初めてレポートを表示する際に、信頼できるウェブサイトとして [https://<サーバーのドメイン/IP>] を追加するように要求される場合があります。これは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成に基づいて表示されます。
- RAS Reporting Service は、RAS レポートサーバー上の下記の場所にログを保存します。
 %PROGRAMDATA%\Parallels\RASLogs\RAS Reporting\ReportingSetup.log
 %PROGRAMDATA%\Parallels\RASLogs\RAS Reporting\reporting.log

定義済みレポート

RAS Reporting Service には、定義済みレポートが多数あり、以下のグループに分類されています。

レポートグループ	説明
ユーザー レポート	エンドユーザーの RAS 使用状況に関するレポートが含まれます。
ユーザーグループのレポート	ユーザーグループの RAS 使用状況に関するレポートが含まれます。
デバイス レポート	RAS に接続しているデバイスに関するレポートが含まれます。
サーバー アクティビティ レポート	RAS サーバー コンポーネントのアクティビティに関するレポートが含まれます。
サーバー健全性レポート	RAS の各コンポーネントのサーバーCPU および RAM 使用量に関するレポートが含まれます。
アプリケーションレポート	アプリケーションに関するレポートが含まれます。
ログオン期間のレポート	ユーザーのログオン時間に関する詳細情報を示すレポートです。また、接続時間、認証時間、RAS ポリシー検索時間、ホスト準備時間、グループポリシーロード時間、デスクトップロード時間に関する情報も含まれます。
UX エバリュエーターのレポート	UX エバリュエーターに関して、クライアント側の最初の手順 (ユーザーのアクション) から最後の手順 (レスポンスの画像表示) までの時間間隔を測定したレポートが含まれます。
接続品質レポート	接続品質に関するレポートが含まれます。
レイテンシーに関するレポート	レイテンシーに関するレポートが含まれます。
転送プロトコルのレポート	セッション中における各転送プロトコルの使用時間に関するレポートが含まれます。
帯域幅の可用性レポート	帯域幅の可用性に関するレポートが含まれます。
セッション中断レポート	最も多い切断理由と再接続回数を示すレポートが含まれます。

カスタム レポート

SQL Server Report Builder を使用して独自のカスタムレポートを作成する方法を説明します。

カスタム レポートの有効化

カスタム レポートの有効化手順は下記の通りです。

- 1 [RAS console] にて、[管理]>[レポート] タブに遷移し、[詳細設定] をクリックします。

- 2 [詳細設定] ウィンドウが表示されます。[その他] タブに遷移し、[カスタム レポートを有効化]を選択後、[フォルダー名] に [<カスタム レポート(.rdl)を保存するフォルダー名>] を入力します。[OK] をクリックします。

注：これは SSRS 側に配置された仮想フォルダーであることに注意してください。このため従来のようにパスではなく、名前を指定する必要があります。

- 3 [適用] をクリックして、構成の変更を保存します。
- 4 [レポート] に遷移し、Custom reports フォルダーが表示されていることを確認します。

カスタムレポートの構成

本ガイドでは、例として「各ユーザーによって使用されているアプリケーションと、アプリケーションが起動された回数」を表示するレポートを作成します。

Microsoft レポートビルダーのインストール

Microsoft レポートビルダーをこちらからダウンロードしてください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53613>

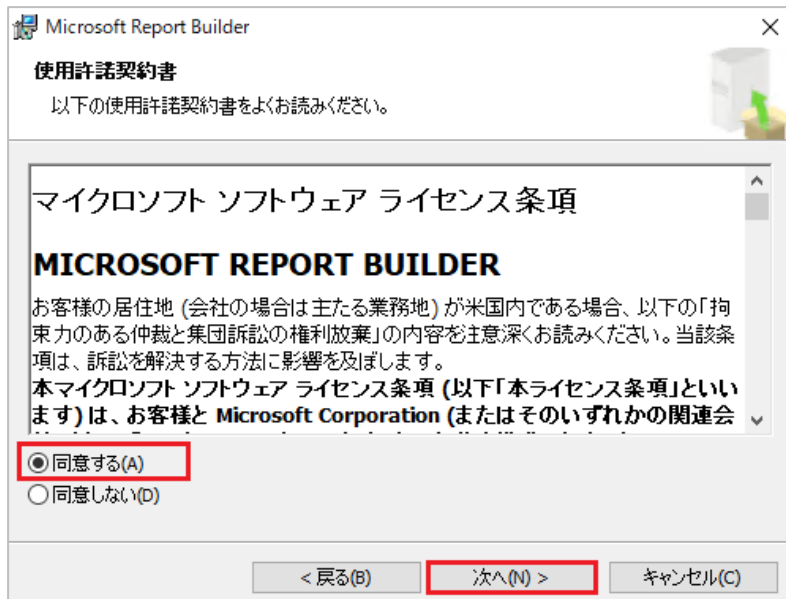
注: 互換性の問題が発生するのを防ぐため、SQL Server エディションに対応するバージョンをご利用ください。

Microsoft レポートビルダーのインストール手順は下記の通りです。本操作は、RAS レポートサーバーにて実施します。

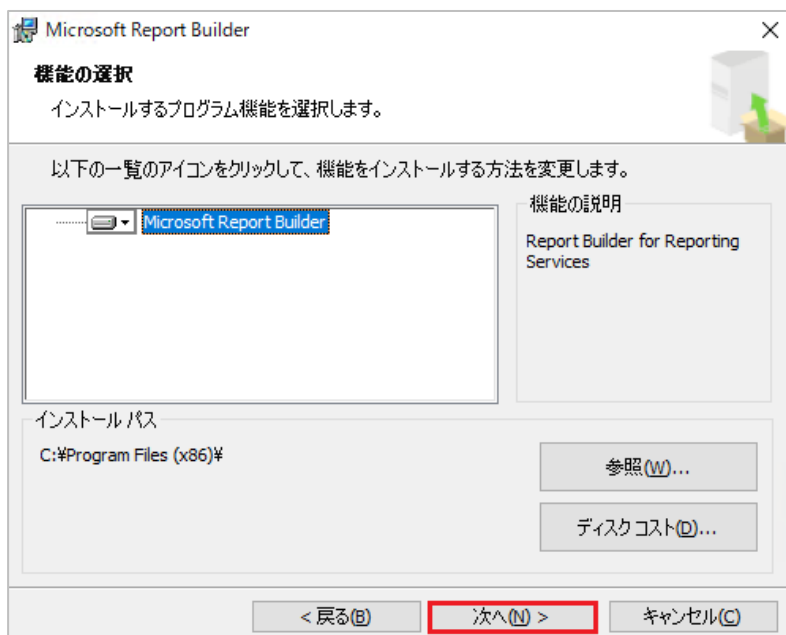
- 1 インストーラー [ReportBuilder.msi] を実行します。
- 2 [次へ] をクリックします。



- 3 「使用許諾契約書」ページで、[同意する]を選択して、[次へ]をクリックします。

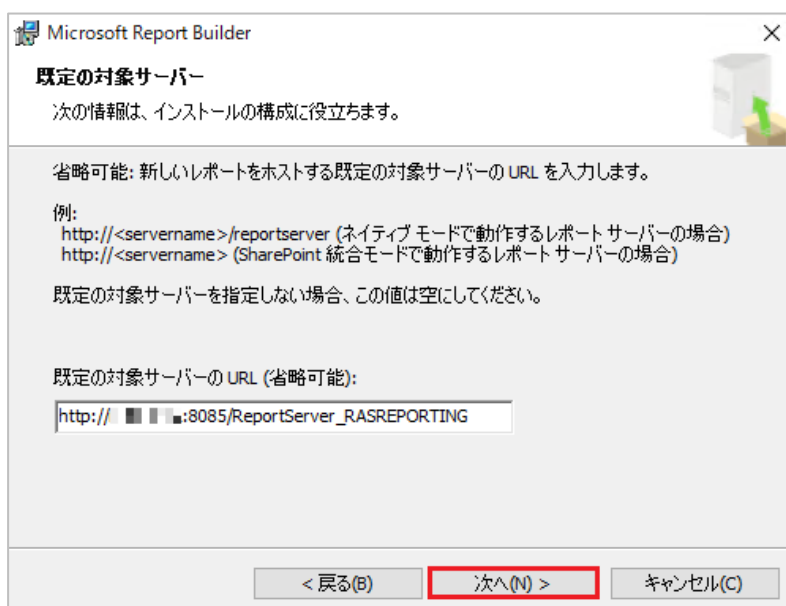
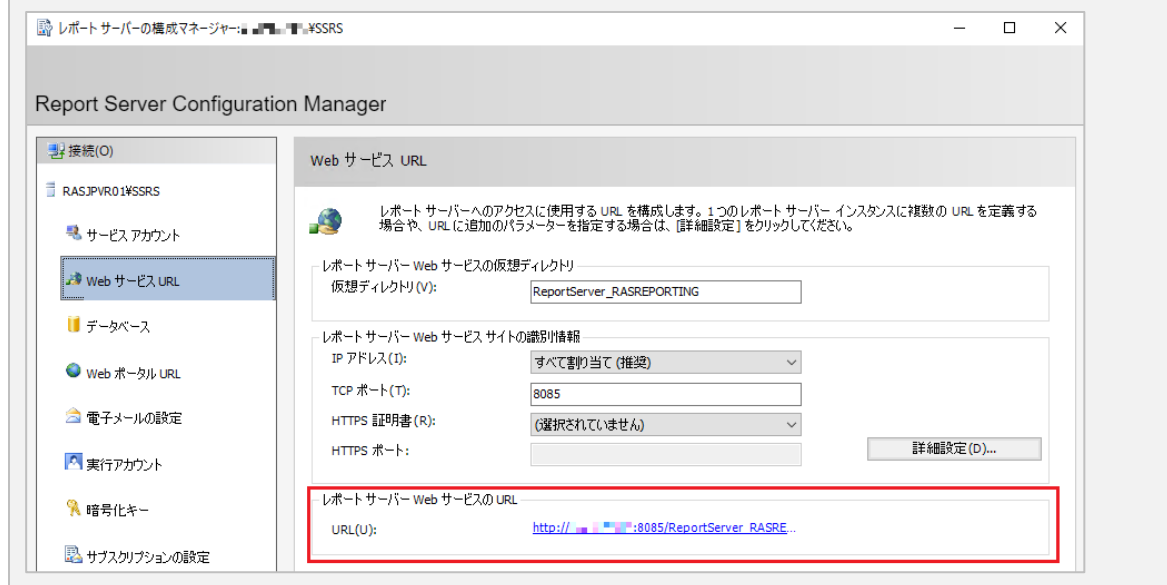


- 4 「機能の選択」ページで、インストール先となるフォルダーを任意に指定して、[次へ]をクリックします。

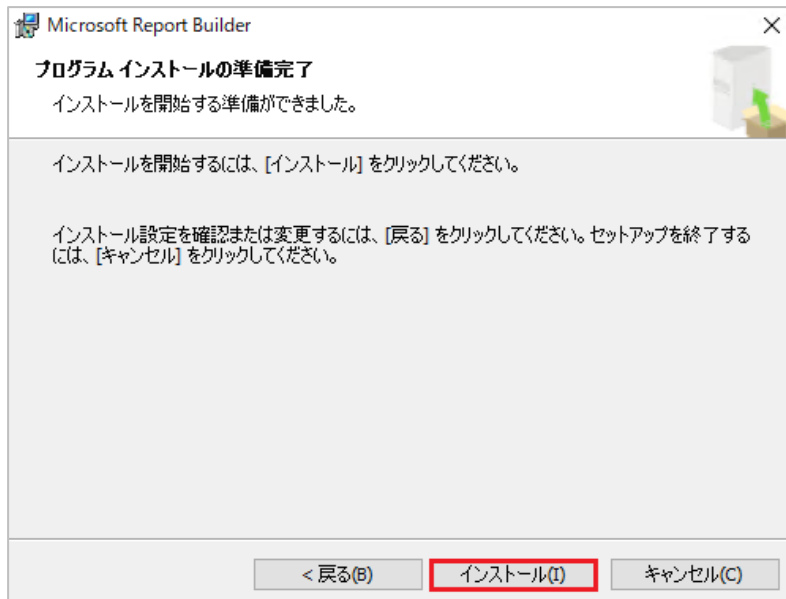


- 5 「既定の対象サーバー」 ページで、[既定の対象サーバーの URL] に [<RAS レポートサーバーの URL>] (例: http://<ホスト名>:8085/ReportServer_RASREPORTING) を入力して、[次へ] をクリックします。

注: RAS レポートサーバーの URL は、[レポートサーバーの構成マネージャー] の [Web サービス URL] から確認できます。



- 6 「プログラム インストールの準備完了」 ページで、[インストール] をクリックします。



- 7 インストール完了後、[完了] をクリックして、ウィザードを閉じます。



埋め込みデータソースの作成

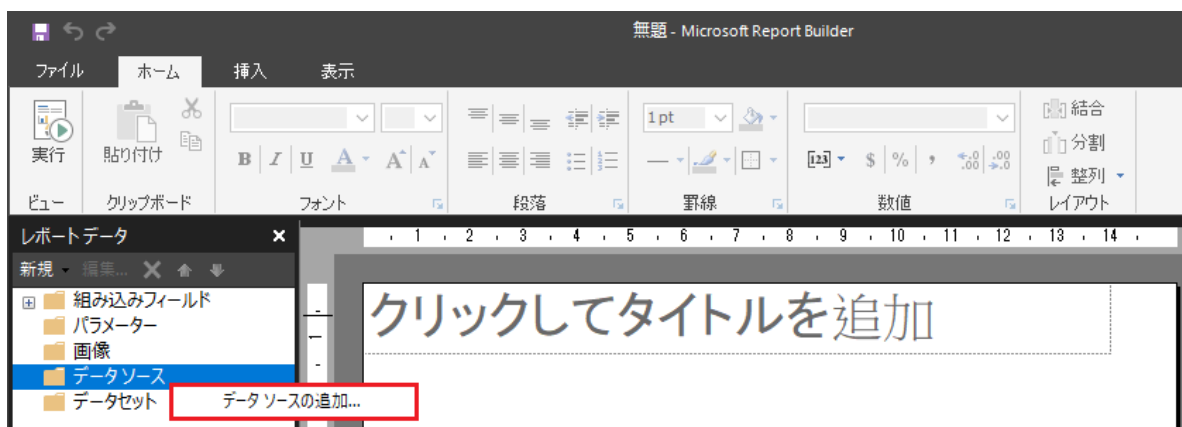
SQL Server データベースからレポートを作成するには、データセットを利用する必要があります。データセットを作成するには、事前にデータソースを作成しておく必要があります。

データソースの作成手順は下記の通りです。

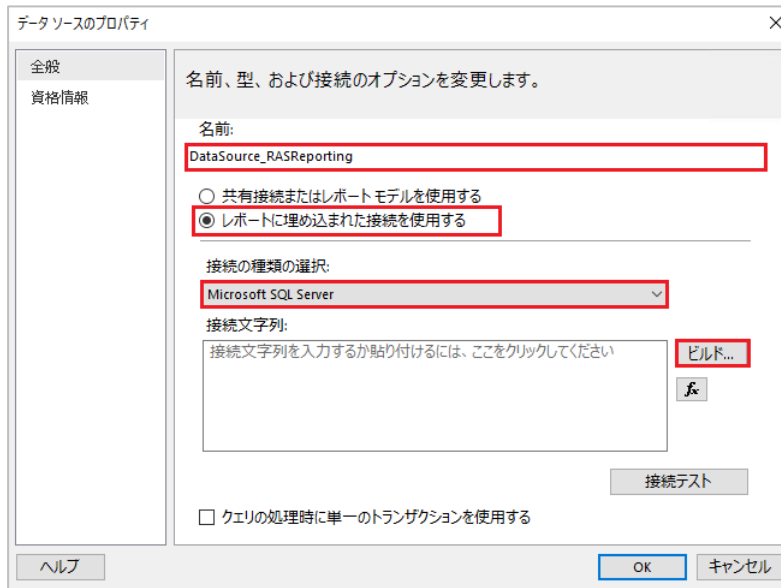
- 1 [Microsoft レポートビルダー] を実行し、[空のレポート] をクリックします。



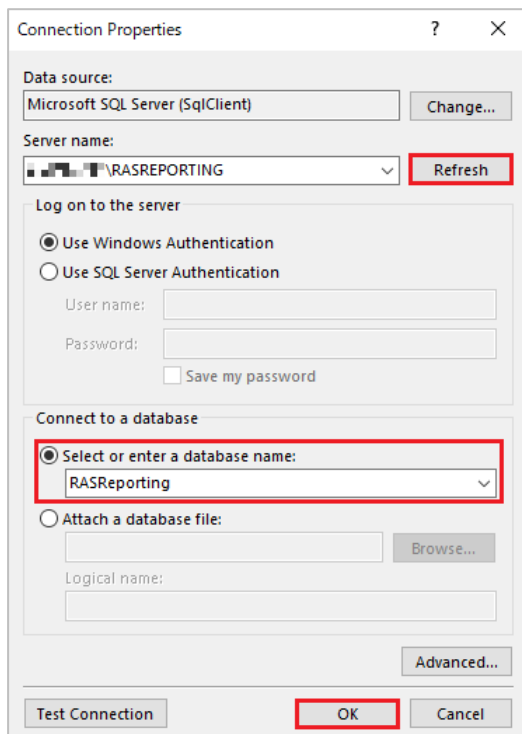
- 2 [データソース] を右クリック後、[データソースの追加] をクリックします。



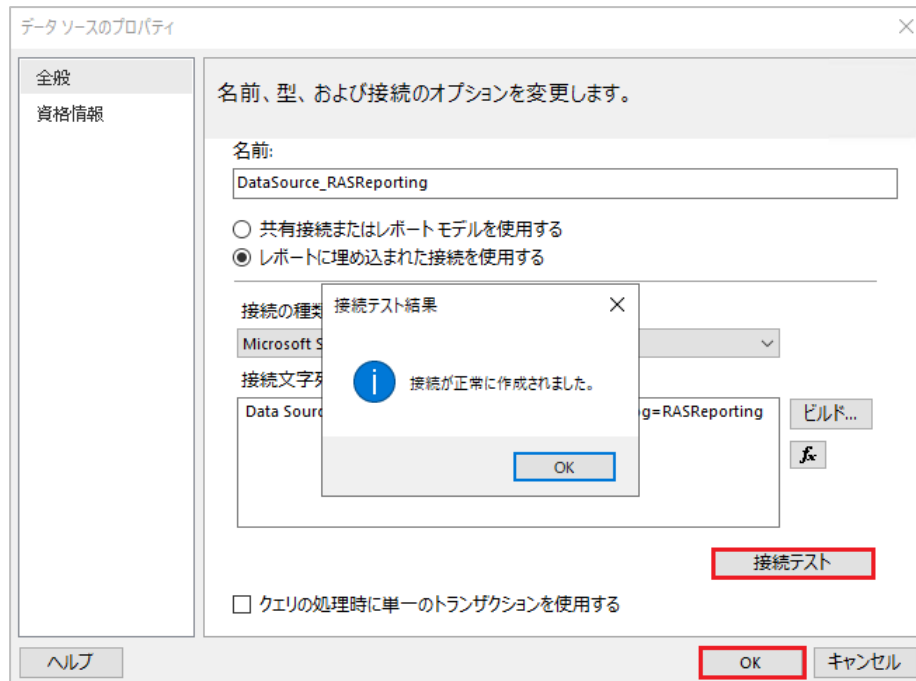
- 3 「データソースのプロパティ」ウィンドウが表示されます。[名前] に任意のデータソース名 (例: DataSource_RASReporting) を入力するか、既定値をそのまま使用します。[レポートに埋め込まれた接続を使用する] を選択し、[接続の種類] で [Microsoft SQL Server] を選択します。



- 4 [ビルド] をクリックします。「Connection Properties (接続プロパティ)」ウィンドウが表示されます。
- 5 [Server name] で [<利用可能な SQL サーバー名/インスタンス名>] (例: <ホスト名>\RASREPORTING) を選択します。[select or enter a database name] を選択し、[<データベース名>] (例: RAS Reporting) を選択後、[OK] をクリックします。



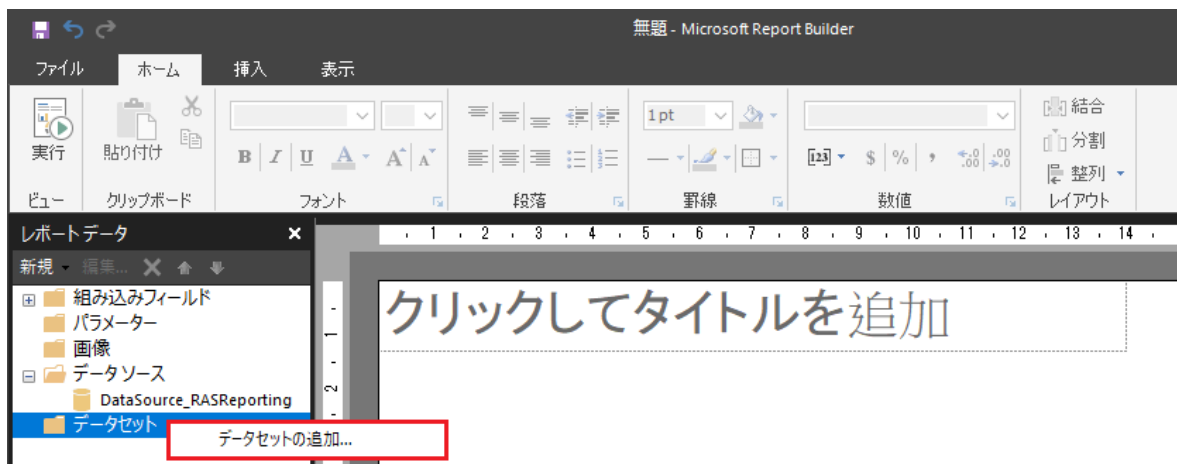
- 6 [接続テスト] をクリックして、データソースが使用可能であることを確認し、[OK] をクリックします。



埋め込みデータセットの作成

データソースを構成した後に、データセットも作成する必要があります。

- 1 [Microsoft レポートビルダー] にて、[データセット] を右クリック後 [データセットの追加] をクリックします。



- 2 「データセットのプロパティ」ウィンドウが表示されます。[名前] に任意のデータセット名 (例: DataSet_RASReporting) を入力するか、既定値をそのまま使用します。[レポートに埋め込まれたデータセットを使用します。] を選択します。

データセットのプロパティ

データソースを選択し、クエリを作成します。

名前(N):
DataSet_RASReporting

☐ 共有データセットを使用します。
☒ レポートに埋め込まれたデータセットを使用します。

データソース(D):
DataSource_RASReporting 新規(W)...

クエリの種類:
☒ テキスト(T) ☐ テーブル(B) ☐ ストアド プロシージャ(S)

クエリ(Q):

クエリデザイナー(U)... インポート(I)... フィールドを最新の情報に更新(R)

タイムアウト (秒)(M):
0

ヘルプ OK キャンセル

- 3 クエリ コマンドを設定します。[クエリデザイナー] をクリックし、クエリを作成します。もしくはクエリボックスに直接クエリを入力します。クエリ設定後、[OK] をクリックします。

クエリ例

```
SELECT
us.Username,
ac.ApplicationName AS [Application Name],
COUNT(ac.ApplicationName) AS [NumOf Times Used]

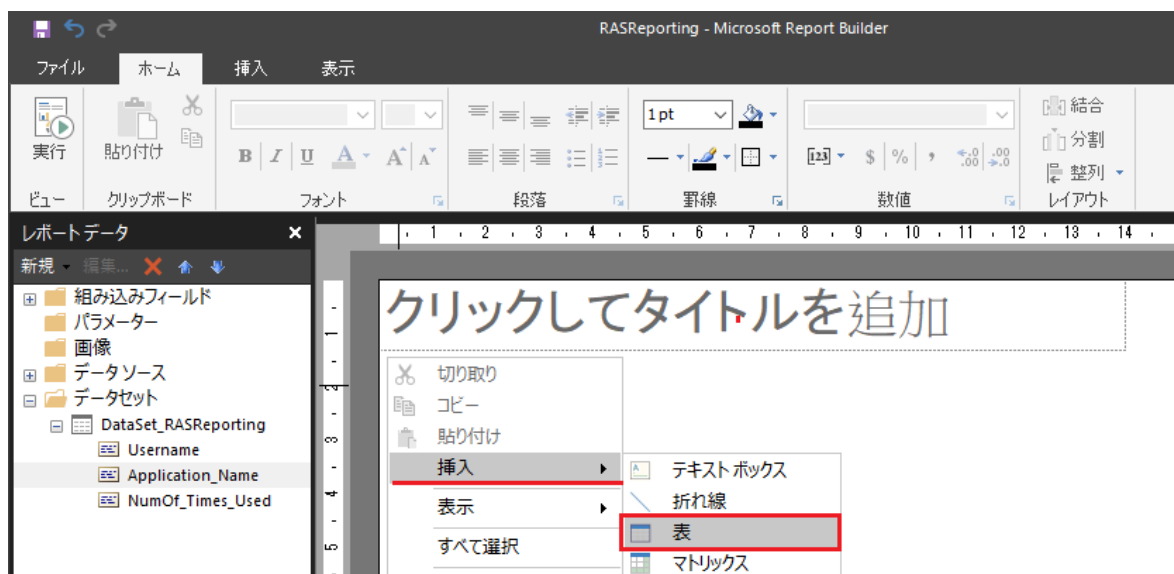
FROM
dbo.Users us INNER JOIN
dbo.RDSessions rd ON us.SID = rd.User_fk INNER JOIN
dbo.ApplicationConnections ac ON ac.Session_fk = rd.Session_ID

GROUP BY
us.Username,
ac.ApplicationName
```

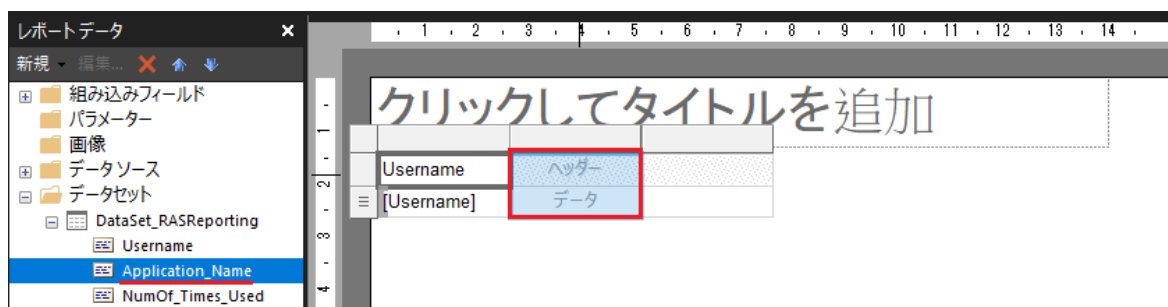
カスタム レポートの作成

データセットが設定されると、実際のレポートの作成を開始できます。データセット SQL ステートメントによって提供されるフィールドに従ってテーブルに入力します。

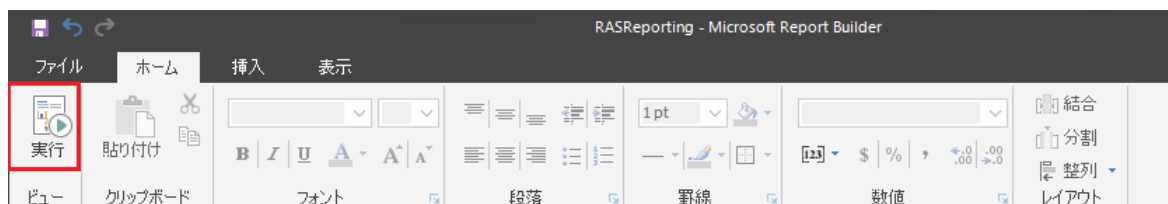
- 1 [Microsoft レポートビルダー] にて、レポートデザイン領域で右クリックし、[挿入]>[表]の順にクリックします。



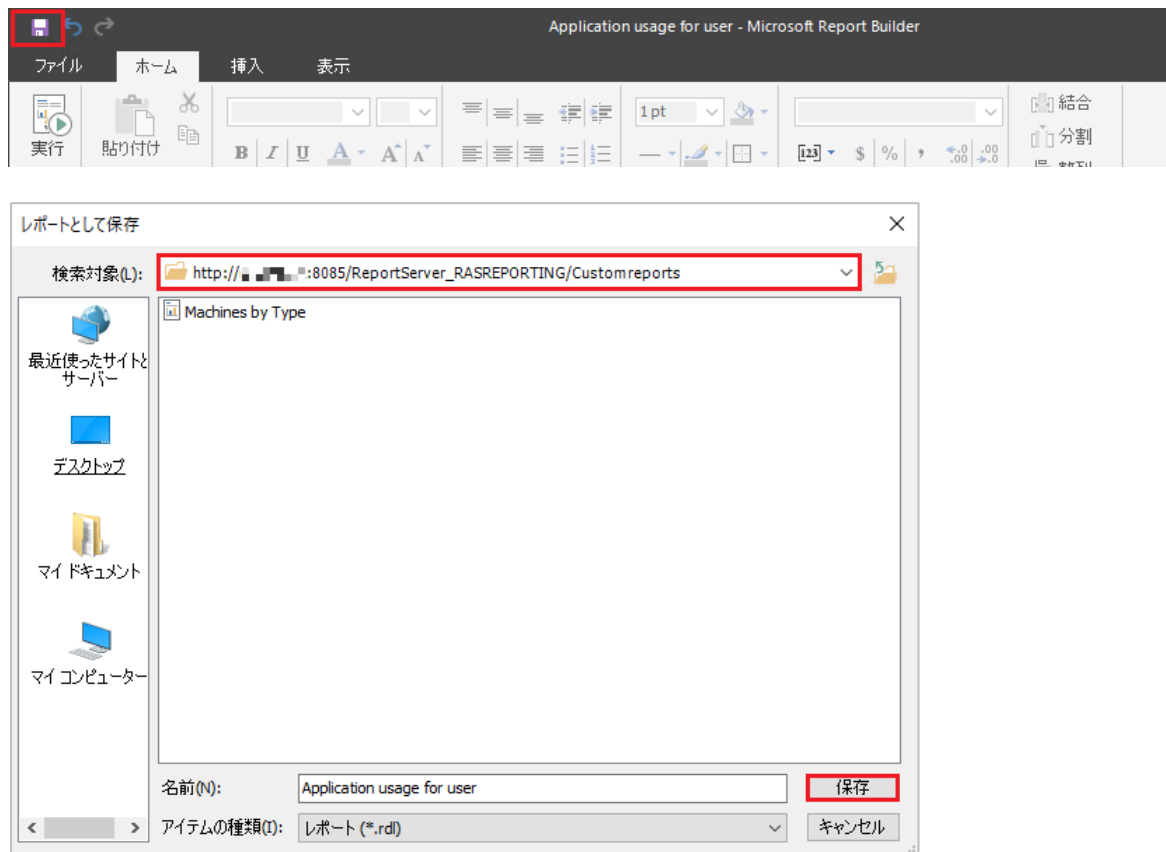
- 2 [データセット]を展開し、ドラッグ&ドロップでテーブルにデータを入力します。



- 3 [実行] をクリックし、レポート出力を確認します。



- 4 [保存] をクリックし、「カスタム レポートの有効化」で指定したフォルダーに保存します。



- 7 RAS レポート サーバーにて、[RAS console] を実行し、[管理] > [レポート] タブに遷移します。作成したカスタム レポートが表示されることを確認してください。

付録

RAS レポート データベース テーブル

RAS レポート データベース スキーマは、こちらからご確認ください。

https://kb.parallels.com/Attachments/kcs-171407/DB_relations_Diagram.jpg

どのテーブルがリンクされているかを明確にするには、テーブルごとに [Navigation Properties] を確認してください。

テーブル	説明
ApplicationConnections	セッションで使用されたアプリケーションの名前と ID が含まれます。このテーブルは、セッション情報が含まれる [RDSessions] テーブルにリンクされています。
ComponentsConnections	[PublishingAgentConnections] テーブルと組み合わせて使用されます。マシンが接続されると、Publishing Agent に接続されます。このテーブルは、マシンを Publishing Agent にリンクします。
DBUpgradeHistory	データベースのすべてのアップグレード バージョンが含まれます。
Devices	ファームへの接続に使用されたデバイスに関する情報が含まれます。
Disconnections	すべての接続の切断時間が含まれます。
Farms	ファームの情報が含まれます。
Gateways	[GatewayTypes] テーブルにリンクされており、すべてのゲートウェイとそのタイプを示します。
GatewayTunnelledConnections	[Gateways] テーブルにリンクされており、ゲートウェイを通過する接続数を示します。
GatewayTypes	ゲートウェイ タイプ (通常、転送、不明) が含まれます。
Groups	すべてのグループが含まれます。
Guests	接続されているゲスト VM とそれが属する VDI のレコードを保持します。このテーブルはクエリでは使用されません。
HostTypes	[VDIHost] テーブルで使用されるすべてのホスト タイプが含まれます。
IdleConnections	すべての接続のアイドル時間が含まれます。
Machines	ファームに接続されているすべてのサーバーに関する情報を保存します。これには、ターミナル サーバー (TS)、Publishing Agents (PA)、ゲートウェイ (GW)、リモート PC (RPC)、VDI ホスト (VDI H)、および VDI ゲスト (VDIG) が含まれます。
MachineStateLogs	マシンが推移するさまざまな状態のレコードが含まれます。状態の完全なリストについては、[MachineStates] テーブルを確認してください。
MachineStates	このテーブルには、[MachineStateLogs] テーブルで使用されるすべてのマシン状態が含まれます。
MachineType	[Machines] テーブルで使用されるマシン タイプが含まれます。
Members	[Groups] および [Users] のテーブルと組み合わせて使用されます。どのユーザーがどのグループに属しているかを確認できます。
MemoryHealth	現在のサーバーのメモリ使用率についての情報がタイムスタンプ付きで保存されます。
Notifications	RAS console に表示された通知が含まれます。

ProcessorHealth	現在のサーバーのプロセッサ使用率についての情報がタイムスタンプ付きで保存されます。
Protocols	[RDSessions] テーブルで使用されるプロトコルが含まれます。
PublishingAgentConnections	このテーブルは、PA がアクティブであった期間を記録するために使用されます。PA が現在もアクティブな場合、[Started] フィールドと [Ended] フィールドは同じです。切断状態を受信すると、エンジンによって [Ended] フィールドに新しいタイムスタンプが設定されます。
RDCConnections	このテーブルは、[RDSessions] テーブルにリンクしています。セッションは複数の状態を持つ可能性があります。他の 2 つの状態 (切断とアイドル) になるには、まず接続を確立する必要があります。したがって、この他の 2 つのテーブルは、これらの状態が [RDCConnections] テーブルと関連していることを示します。
RDSessions	クライアントによって確立されたセッション、使用されたプロトコル (コンソールまたは RDP)、セッションタイプ (デスクトップ、公開済みアプリ、VDI アプリ)、セッションを作成したユーザー (すべてのユーザーがテーブルに事前に入力されています)、開始時刻と終了時刻のリストが保存されます。
RemotePC	このテーブルはプレースホルダーであり、現在 PK 以外の列はありません。
SessionTypes	[RDSessions] テーブルのセッション タイプが含まれています。
Sites	ファームの各サイトが含まれます。
TerminalServers	このテーブルはプレースホルダーであり、現在 PK 以外の列はありません。
TimeZones	すべてのタイムゾーンが含まれます。
Users	ログインしたすべてのユーザーが含まれます。
VDIHost	VDI ホストとそのタイプのレコードを保持します。このテーブルはクエリでは使用されません。